

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） 第四次中間評価書（案）

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、本調査から得られた成果から環境政策の検討を行うことを目的としている。その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の企画及び実施内容の評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の実施状況の評価を実施することとしている。

エコチル調査は、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施している。

エコチル調査の実施状況の評価については、同調査が長期間にわたる事業であることを鑑み、進捗状況に関する年次評価又は中間評価を行うこととし、事業終了後には最終評価を行うこととしている。

第四次中間評価においては、学童期におけるフォローアップが後半に入ること、また、令和4（2022）年度に基本計画が改定され、参加者が13歳以降18歳に達するまで調査を継続していくことを踏まえ、フォローアップの進捗状況等の中間評価を行う。調査実施のための組織体制の妥当性、フォローアップの進捗状況等、長期的なフォローアップに向けた準備状況、学童期検査・詳細調査の実施状況、個人情報管理の状況、データ利用及び成果発表のルールへの遵守状況、研究（追加調査等）の体制及び実績、調査結果に関する広報活動の状況、環境政策・施策への反映等の観点から評価を行うこととする。

また、エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。

なお、令和2（2020）年度から令和4（2022）年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、エコチル調査では地域の状況に応じて学童期検査や詳細調査等の対面式調査の実施状況が異なっていることも考慮して中間評価を行うこととした。

2. 概評

2-1 実施体制

エコチル調査のユニットセンターは、公募で選ばれた全国15地域の大学等*で組織されている。ユニットセンターでは、参加者から返送のあった質問票の入力、詳細調査での訪問調査、医学的検査、精神神経発達検査の実施、参加者への広報などのコミュニケーション活動、地域運営協議会の運営及び調査結果を用いた研究活動を行っている。調査の目的である環境要因が子どもの健康に与える影響を解明できるように参加者の維持に努めるとともに、調査の状況、地域の実情を勘案した適切な実施体制を毎年度検討することが望まれる。

※一部のユニットセンターにおいては、サブユニットセンターを設置した上で、エコチル調査

を実施している。年次評価では、サブユニットセンターも独立した評価対象としていることから、計 19 センターが評価対象。

令和元（2019）年度には、より一体的にエコチル調査を実施するため、ユニットセンターに対する委託事業を含めて、エコチル調査の実施に関する予算が国立環境研究所に一元化されるとともに、子どもの成長過程における化学物質ばく露や健康状態を評価するための「学童期検査」が開始された。令和 5（2023）年度は、予算の一元化や学童期検査の開始から 5 年目に当たり、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症になり、引き続き感染症対策に留意しながら対面調査が実施され、また、13 歳以降の調査継続に向けて説明書を送付し、参加者ポータルを用いた同意取得の取組も開始された。メディカルサポートセンター内に設置された遺伝子解析室では DNA 解析等が進められている。以上の状況を踏まえ、コアセンターを中心として、関係者がより一層連携を密にして、エコチル調査を実施する必要がある。

2-2 子ども出生数に対する現参加者数（現参加者率）

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするため、参加者数を高い水準で維持することがエコチル調査の最重要課題の一つである。「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書」においても、「追跡率^{*}は、フォローアップ期間終了時に 80%以上となることを目指す」と記載されている。追跡率を示す指標である現参加者率（子どもの出生数に対する現参加者数）について、集計を開始した平成 28（2016）年度は 97.3%、令和 5（2023）年 9 月時点でも全国平均で 93.0%であり、高い水準で維持していることは高く評価できる（表 1）。一方で、現参加者率のユニットセンター間における最大値と最小値の差については、集計が開始された平成 28（2016）年度は 3.4%、平成 29（2017）年度は 3.7%、平成 30（2018）年度は 4.7%、令和元（2019）年度は 5.3%、令和 2（2020）年度は 8.1%、令和 3（2021）年度は 9.0%、令和 4（2022）年度は 9.5%、令和 5（2023）年 9 月時点では最大値 96.3%、最小値 86.7%で差は 9.6%であり、現参加者率のユニットセンター間の格差は拡大している。このため、現参加者に協力を継続していただくためにも、エコチル調査関係者が一丸となって成果の社会還元等を通してエコチル調査の意義を理解していただけるように努める必要がある。今後は、13 歳以降の調査に向け、参加者コミュニケーション活動の充実などにより調査参加者の参加意識の維持に努め、また、参加者（子ども）のエコチル調査に対する理解を促進するなど、引き続き現参加者率を高い水準で維持するための取組が望まれる。

※追跡率：時間を追って追跡情報を入手できる調査対象者数を調査開始時の調査対象者数で割ったもの。

2-3 質問票回収状況

エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするためには、参加者の質問票回収率を高い水準で維持することが最重要課題の一つである。全年齢を平均した回収率について、平成 28（2016）年度は 88.6%、平成 29（2017）年度は 86.9%、平成 30（2018）年度は 85.2%、令和元（2019）年度は 84.1%、令和 2（2020）年度は 83.5%、令和 3（2021）年度は 83.2%、令和 4（2022）年度は 82.2%、令和 5（2023）年 9 月時点でも全国平均で 81.3%であり、高い水準で維持していることは高く評価できる（表 2）。なお、令和 5（2023）年 9 月 25 日時点の子どもの出生後の質問票回収率は、生後 6 ヶ月 94.1%、1 歳 91.4%、1 歳半 89.2%、2 歳 87.4%、2 歳半 85.7%、3 歳 84.3%、3 歳半 81.8%、4 歳 80.6%、4 歳半 78.9%、5 歳 76.9%、5 歳半 78.1%、

6歳 78.2%、7歳 78.8%、8歳 78.3%、9歳 76.6%、10歳 73.3%、同じく10歳の子ども本人が回答する質問票が72.0%、11歳 72.4%、11歳の子ども本人が回答する質問票が71.7%である。生後6ヶ月から4歳までの質問票の回収率は昨年度の年次評価から変化はなく、いずれも80%以上となっており、以後は70%台となっている。

また、参加者（子ども）が学童期を迎えたことから、令和元（2019）年度より、学年毎の質問票調査も開始しており、令和5（2023）年9月25日時点の回収率は小学1年80.3%、小学2年77.3%、小学3年76.6%、小学4年75.3%、小学5年74.1%となっている。今後は、引き続き質問票回収率を高い水準で維持できるような取組が期待される（表2）。

一方で、質問票回収率（全年齢平均）のユニットセンター間における最大値と最小値の差については、平成30（2018）年度は13.4%、令和元（2019）年度は13.5%、令和2（2020）年度は13.0%、令和3（2021）年度は12.9%、令和4（2022）年9月時点は12.1%、令和5（2023）年9月時点は12.2%であり、質問票回収率はユニットセンター間で依然として格差が見られる。また、多くのユニットセンターで、子どもの年齢を重ねるごとに質問票回収率が低下する傾向があり、今後、質問票回収率の低下をできる限り抑えていくことが最重要課題である。

また、全ユニットセンターの平均における、生後6ヶ月時点と直近の質問票調査（各年度9月時点）との回収率の差については、集計が開始された平成28（2016）年度は13.9%、平成29（2017）年度は18.3%、平成30（2018）年度は17.5%、令和元（2019）年度は17.3%、令和2（2020）年度は17.5%、令和3（2021）年度は17.2%、令和4（2022）年度では同じく17.2%、令和5（2023）年度では20.0%であった（表2）。前述の通り、質問票回収率の低下をできる限り抑えていくことが最重要課題であり、引き続きユニットセンター間において、優れた取組から相互に学んでいくことが有効と考えられる。

なお、6ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける令和4（2022）年9月25日時点と令和5（2023）年9月25日時点での年齢別回収率の回帰直線（ $Y=aX+b$ ）の傾き（a）の差異（表3-1、表3-2）について、すべてのユニットセンターにおいて、質問票回収率の減少に改善傾向が見られたことは高く評価できる。引き続き各ユニットセンターにてPDCA^{*}サイクルに則った取組を行う必要がある。

※PDCA：Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検）、Action（是正）を意味し、品質向上のためのシステムの考え方。

2-4 詳細調査の実施状況

平成26（2014）年10月に開始した詳細調査のリクルートは、平成28（2016）年8月時点で5,018名の応諾を得た。平成26（2014）年11月より、参加の意思表示を確認し、訪問の調整がついた者から初回の訪問時に参加の同意書を受領した上で、1歳半時の訪問調査（環境測定）を開始した。また、平成27（2015）年4月より2歳時の医学的検査及び精神神経発達検査、平成28（2016）年5月より3歳時の訪問調査（環境測定）、平成29（2017）年4月より4歳時の医学的検査及び精神神経発達検査を開始した。

平成31（2019）年4月より、6歳時の医学的検査（採血、採尿、身体計測）を開始したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2（2020）年3月から全ユニットセンターにおいて調査を中断した。令和2（2020）年7月から緊急事態宣言の解除等を受け、地域の状況を十分に考慮した上で、地域毎に順次調査を再開し

た。令和5（2023）年9月末現在はすべてのユニットセンターにおいて調査が進められている。

今後の詳細調査の円滑な実施のためにも、調査参加者の参加意識の向上に努め、また、令和5年4月から開始した10歳時詳細調査を着実に進めることが必要である。

2-5 学童期検査

エコチル調査の当初の研究計画書に、全体調査において質問票調査とともに、6歳と12歳時点で、小児科診察、身体計測、採尿を行うことが示されており、リクルート時における参加者に対する説明書にも記載されていた。6歳時点での調査に向けて検討を行ってきたが、調査実施に十分な準備期間が必要なこと及び調査実施上の意義の観点から、調査時期を運営委員会にて再検討し、小学2年生（児が8歳となる年度）時点で行うこととなった。

以上の準備を経て、令和元（2019）年度より学童期検査を開始しているが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2（2020）年3月に全ユニットセンターにおいて検査を中断した。令和2（2020）年7月から緊急事態宣言の解除等を受け、地域の状況を十分に考慮した上で地域毎に順次検査を再開したところである。調査の再開に当たっては、調査参加者の不安の解消に向けて取組むとともに、保健所等地域の関係機関と協議を進めてきた。令和5（2023）年9月末現在はずべてのユニットセンターにおいて調査が進められている。

令和5（2023）年7月から、小学6年生の学童期検査を開始したところである。子どもの成長過程における化学物質ばく露や健康影響の評価を目的とした小学6年生（児が12歳となる年度）時点の採血の実施は、胎児期ばく露と現在のばく露の状況が大きく異なることから重要性は極めて高い。参加者の安全及び倫理面に配慮しつつ、詳細調査同様、調査参加者の参加意識の維持に努めることが必要である。

2-6 参加者及び調査地域でのコミュニケーション活動

参加者のフォローアップや成果の還元に関する取組の一環として、PDCAサイクルに則り、参加者コミュニケーションの取組を行っている。

令和4（2022）年度から人を集めたイベント等も一部再開された。新型コロナウイルスの感染拡大前のような参加者コミュニケーションの実施が難しいことを踏まえつつ、エコチル調査に係る業務全般の取組について、コミュニケーション活動を中心に、PDCAサイクルに則った取組状況について評価を実施した（表4-1、表4-2）。多くのユニットセンターにおいてポストコロナ時代の「新しい生活様式」に則った参加者コミュニケーションや、学童期の子どもを対象としたコンテンツづくりが定着していた。各地域において調査参加者の参加意識を維持していくため、引き続きユニットセンター間で相互に優れた取組を学び、活動を横展開していくことが重要である。また、効果的・効率的に情報発信が行えるよう、各地域が共通で活用できるコンテンツづくりを環境省やコアセンターが中心となって進めることが望まれる。

今後は、13歳以降も調査に継続して参加いただくために、コアセンター及び各ユニットセンターは、調査参加者（思春期の子どもとその保護者）に対し、各種コミュニケーション活動を実施していくことが重要である。また、さらに学術論文等の成果が積み重ねられていくことを踏まえ、参加者に対してエコチル調査の成果の還元を図る観点から各種コミュニケーション活動を実施することが求められる。

2-7 地域運営協議会の実施状況

各ユニットセンターが調査地域の関連組織と良好な関係を構築・維持することは、今後の調査を円滑に継続するために必要不可欠であると考えられる。エコチル調査の参加者が18歳に達するまで調査が継続されていくことや、エコチル調査の成果発表がさらに増えていくことを勘案し、各ユニットセンターが地域の小中学校等の教育関係機関や地方公共団体の環境部局等に対し、地域運営協議会への参加を促していくことが必要である。

令和5（2023）年度から開始された採血を伴う12歳の学童期検査への協力を得るため、さらには、参加者が18歳に達するまで調査が継続されることへの理解と協力を得るため、地域運営協議会等を通じて、より一層上述の機関との連携を深めていくことが期待される。

2-8 化学分析等の実施状況

エコチル調査の目的は「環境要因が子どもの健康に与える影響を明らかにすることであり、特に化学物質のばく露や生活環境が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、適切なリスク管理体制の構築につなげることである。この目的を達成するために、ばく露評価の対象となる化学物質等の分析を着実に進めることが必要不可欠である。

これまでの化学分析の実施状況は下表に示すとおりである。

| 実施年度 | 媒体 | 対象物質 | 検体数 | 状況 |
|-----------------------|----------|-------------------------------|--------|-------------------|
| 平成26-29 (2014-17) | 母体血（妊娠中） | 金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se） | 95,811 | 完了 |
| 平成29(2017) | 臍帯血 | 金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se） | 3,897 | 完了 |
| 平成26-30 (2014-18) | 母体尿（妊娠中） | 喫煙マーカー（コチニン）、ストレスマーカー（8-OHdG） | 96,490 | 完了 |
| 平成29-令和3 (2017-21) | 母体血（妊娠中） | 有機フッ素系化合物（PFAS） | 25,000 | 完了 |
| 平成30-令和3 (2018-21) | 臍帯血 | メチル水銀（Me-Hg）、無機水銀（I-Hg） | 3,897 | 完了 |
| 平成30-令和3 (2018-21) | 母体尿（妊娠中） | フェノール類 | 10,000 | 完了 |
| 平成30-令和3 (2018-21) | 母体尿（妊娠中） | 有機リン系農薬代謝物 | 5,730 | 完了 |
| 令和元-令和3 (2019-21) | 母体尿（妊娠中） | フタル酸エステル代謝物 | 20,000 | データ固定済 (配布準備中) |
| 平成30-令和3 (2018-21) | 母体尿（妊娠中） | ネオニコチノイド系農薬 | 20,000 | データ固定済 (配布準備中) |
| 令和2-4 (2020-22) | 母体尿（妊娠中） | 形態別ヒ素化合物 | 5,039 | データ固定済 (配布準備中) |
| 令和2-4 (2020-22) | 臍帯血 | 有機フッ素系化合物（PFAS等） | 5,001 | データ固定済 (配布準備中) |
| 令和2-4 (2020-22) | 母体血（妊娠中） | ダイオキシン類縁化合物（芳香族炭化水素受容体活性） | 4,956 | データ固定済 (配布準備中) |
| 令和2-4 (2020-2022) | 母体血（妊娠中） | 残留性有機汚染物質（PCBs、DDTs、PBDEs） | 13,000 | データ固定済 (配布準備中) |
| 令和3(2021)- | 母体尿（妊娠中） | ピレスロイド系農薬代謝物 | 10,013 | データ固定～ |

| | | | | 配布準備 |
|-------------|-----------------|---------------------|--------|----------------|
| 令和 3(2021)- | 小児血血漿 (詳細調査) | 有機フッ素系化合物 (PFAS 等) | 5,010 | データ固定～ 配布準備 |
| 令和 3(2021)- | 小児脱落乳歯 | 金属・元素 | 35,000 | 測定中 |
| 令和 4(2022)- | 母体尿 (妊娠中) | 農薬及び忌避剤 | 5,000 | 精度管理～ データ固定 |
| 令和 4(2022)- | 母体尿 (妊娠中) | リン系難燃剤 | 10,000 | 測定中～ 精度管理 |
| 令和 4(2022)- | 母体血 (妊娠中) | アクリルアミド | 5,000 | 測定中 |
| 令和 4(2022)- | 父体血 (妊娠期間) | 金属 (Pb、Cd、Hg、Mn、Se) | 2,500 | 測定中 |
| 令和 5(2023)- | 小児尿 (詳細調査) | たばこ煙ばく露マーカー (コチニン等) | 10,000 | 測定中 |

令和 5 (2023) 年度は、小児脱落乳歯の金属・元素、母体尿中のリン系難燃剤、母体血中のアクリルアミド、父体血中の金属 (Pb、Cd、Hg、Mn、Se)、小児尿のたばこ煙ばく露マーカー(コチニン等)の測定が進められている。

生体試料の化学分析の精度を担保するため、平成 28 (2016) 年度～29 (2017) 年度に血中金属及び尿中コチニン等を測定した検体の一部を別の分析機関で測定し、結果が検討された。平成 30 (2018) 年度以降は、外部品質評価機関による分析データの品質評価が導入されている。

なお、化学分析の対象物質の優先順位は、コアセンターの運営委員会の下に設置された曝露評価専門委員会で、研究計画書に記載されている生体試料分析候補物質について Delphi 法^{*}を用いて順位付けが行われている。また、令和元 (2019) 年度に研究デザイン検討会で提案されたエコチル調査開始時の研究計画に含まれていない分析候補物質も踏まえ、生体試料分析対象物質候補案を整理し、企画評価委員会で議論を行っている。

^{*}Delphi 法：複数の専門家から意見を求め、得られた回答を集計して結果を開示した上でさらに再検討することを複数回繰り返すことで意見を集約する手法。

以上の取組みにより、血中金属類、尿中コチニン、血中有機フッ素化合物 (PFAS) 等のデータ固定が終了するなど、着実に化学分析データを解析できる体制が整いつつある。今後も、引き続き化学分析の精度を担保しつつ、適切に優先順位を検討し、国内外の行政や最新の研究における動向、分析方法の整備状況等を勘案し、計画的かつ効率的・効果的に生体試料の化学分析等を進めていくことが望まれる。

2-9 研究成果及び成果の社会への還元

エコチル調査の全国データを用いた成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるような体制を構築し、論文執筆に向けた取組を行っており、令和元 (2019) 年度の年次評価より学術論文等の発表状況について評価を実施しているところである。

エコチル調査の全国データを用いた論文は 423 編 (うち中心仮説に係る論文 51 編)、追加調査に係る論文は 66 編 (令和 5 (2023) 年 12 月末までの累計) 発表されており (表 5-1)、大規模疫学調査の先行研究であるデンマーク全国出生コホート (DNBC)、ノルウェー母子コホート調査 (MoBa) の同じ時期の論文数 (DNBC119 編、MoBa118 編) と比較しても多く、現段階としては評価できる。中でも近年その影響に関する不安や対策の声が上がっている PFAS に関する成果論文を発表したこ

とは高く評価できる。また、特筆すべき事項として、内閣府食品安全委員会の「評価書 鉛」や「評価書 アレルゲンを含む食品 卵」の策定、妊娠前のBMI別に算出した妊婦の体重増加曲線の目安の策定、日本語版 ASQ-3 (乳幼児発達検査スクリーニング質問紙)、「食物アレルギーの診療の手引き 2020」、「食物アレルギー診療ガイドライン 2021」、「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023」、「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023」においてエコチル調査の成果やデータが活用されていること、加えて、研究者・保健医療従事者等を対象とした疫学用語や疫学研究が明らかにしてきたことを解説する「疫学の事典 (日本疫学会監修)」にエコチル調査が取り上げられたことは高く評価できる。引き続き、化学物質と健康影響に係るものを中心とした論文執筆の加速化に一層力を入れることが望まれる。

エコチル調査の進展に伴い、データの分析や学術論文等による成果発表の増加している時期であることから、今後も、その成果を社会に還元していくことが重要である。そのため、エコチル調査全体として、成果還元の状況 (全国データを用いた論文、学会での発表、一般の方や参加者向けの成果発表 (講演会、ホームページ掲載、ニューズレター等)、論文成果に係るプレスリリース等) を適切に評価していくことが必要となる。なお、加速度的に成果発表が増加することを見込み、令和2年度に環境省とコアセンターにより成果発表に関する基本ルールを見直すとともに、論文化の進捗状況を管理や手続きのスリム化を図るシステムを導入し、その後も実際の運用状況を踏まえて改正を行い、研究者の成果発表を支援する環境整備に取り組んでいることは評価できる。加えて、より効果的に成果の社会還元等を進めていくため、令和4 (2022) 年度に広報戦略の見直しを行ったことも評価できる。

また、学術論文等の研究成果が積み重ねられる時期であるため、適切な科学コミュニケーションの実施が望まれる。このため、子育て世代を中心とした国民一人ひとりが、リスクと上手に向き合うことが可能な機会を広げるための取組として、令和元 (2019) 年度より「地域の子育て世代との対話事業」を開始しており、令和4 (2022) 年度に、事業の成果として、エコチル調査の成果を分かりやすく紹介するパンフレットや教育関係者向けのテキスト、対話の実践事例集を公開したのにとどまらず、令和5 (2023) 年度にこれらの改定等を行っていることは高く評価できる。また、令和4 (2022) 年度に出産・子育てに関する情報メディアにエコチル調査の成果を紹介する記事掲載を企画し、子育て世代の悩み・不安に応える情報を分かりやすく提供したこと、さらにその効果を把握し、引き続き令和5 (2023) 年度に子育て世代を対象とした記事掲載を進めていることも高く評価できる。引き続き対話の実践事例の蓄積やコンテンツの更新を進め、実践活動が見える化していくことが期待される。今後も、環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力して成果発表及び社会還元を着実に進めることが望まれる。

2-10 エコチル調査ルールの遵守及び管理状況

エコチル調査は、大規模な調査ゆえ多数の関係者に支えられている。このような調査においては、一定の「ルール」を策定し、それらが遵守されるよう管理することが求められる。特に調査の要となる重要事項において、「ルール」を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行することにつながる。

令和5 (2023) 年度においては、ユニットセンターの自己点検に加え、環境省及びコアセンターが現地調査を実施し、コアセンターから示された個人情報管理に関する基本ルールの遵守状況を確認した。個人情報の漏洩につながるメールの誤送信が令和5年6月に1件あった (なお、コアセンターに速やかに報告されたものの環

境省への報告は令和5年10月であった)。情報セキュリティ等に対するスタッフの意識の向上を図るとともに、ルールに定められた報告を徹底することが必要である(表6)。

データの利用及び成果発表に関する基本ルールの遵守について、各ユニットセンターは、組織内でルールを周知するとともに、成果発表の諸手続きを管理する担当者を配置するなどに努めている。ユニットセンターから環境省に行く成果発表の届出・報告が遅延した事例が若干あるものの、調査に重大な影響を与える違反事例はなかった(表7)。なお、成果発表の届出・報告が遅延があった場合などは注意喚起を行い、改善に向けた対応を求めている。

今後エコチル調査の成果発表が増えてくる時期となり、社会へのインパクトが大きいことから、引き続き、個人情報の管理や情報発信等の体制を強化するとともに、エコチル調査関係者に対する基本ルールの周知徹底していく必要がある。

2-1-1 人材育成

エコチル調査は、多くの人材が関わって進められており、令和5(2023)年9月末までに、環境科学、小児保健分野等を担う288人の人材を輩出したほか(表8)、令和5(2023)年9月末までに343人の大学院生等がエコチル調査に関わり(表9)、ポストクとして雇用された者の数が85人、講師やファシリテーターを務めた者^{*}が547人(令和5(2023)年9月末時点)であったことは、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に貢献していると言える。また、エコチル調査を実施するためには参加者に寄り添った活動が必要であり、地域における様々な教育活動、広報活動、行政との連携等を推進することでコミュニケーション能力やマネジメント能力が醸成される等、エコチル調査が人材育成のプラットフォームになっている。

^{*}エコチル調査の説明会や環境保健や育児・教育等をテーマにしたイベントにおいて講師やファシリテーターを務めた者。

2-1-2 その他

令和2(2020)年度から令和4(2022)年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響がある中、参加者が安心して学童期検査や詳細調査に参加できるよう工夫したり、参加者や地域とのコミュニケーション活動の継続への工夫を進めてきたことは、公衆衛生への貢献、さらには調査参加者や地域の不安解消という観点から高く評価できる。今後も、環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力してリスクコミュニケーション等に努めていく必要がある。

令和2(2020)年9月に研究計画書が定められたゲノム・遺伝子解析については、令和4(2022)年3月、参加者に「ゲノム・遺伝子解析についての説明書」が送付され、令和4(2022)年9月より臍帯血試料から抽出したDNA試料約85,000検体の網羅的DNA塩基多型解析が実施され、現在、データの精度管理が進められているところである。遺伝要因を調べることはエコチル調査の成果をより有意義なものとするために大変重要であり、今後とも、厳重なデータ管理体制を構築しながら、ゲノム・遺伝子解析を着実に進めていくことが求められる。

環境省が改定した基本計画に基づき、参加者が13歳から18歳に達するまで調査が継続されることとなった。13歳以降の調査においては子ども本人も主体となることから、引き続き参加者数を高い水準で維持するため、保護者や調査地域の関係者の協力を得ながら、子どもの参加意識を高めるための取組を着実に進めていくこと

がきわめて重要である。

3. 実施機関別評価

3-1 環境省

エコチル調査の目的とする成果を得るためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠である。当初予算及び補正予算で調査を実施してきたが、令和6（2024）年度についても、調査の継続に必要な予算を確保したことは評価できる。引き続き、コアセンターを中心とした調査体制の整備や参加者の維持に係る安定した予算確保のための努力を行うことが望まれる。

※分析を進め、研究成果の社会への還元を推進する時期に入るにあたって、予算をより効率的・効果的に運用するため、令和元（2019）年度よりユニットセンターの委託費が国立環境研究所運営費交付金へ一体化されることとなった。

調査の企画については、令和3（2021）年度に設置された「健康と環境に関する疫学調査検討会」において、これまでのエコチル調査の成果等について総括を行い、令和4（2022）年3月に13歳以降も40歳程度まで調査を展開する方針が取りまとめられた。これを受け、令和4（2022）年度、参加者が18歳に達するまでの調査について基本計画の改定を行った。

国際連携については、ノルウェー、デンマーク、ドイツ等の諸外国の出生コホート調査の専門家をメンバーとする「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、これらの専門家との連携をより一層強化していくことが望まれる。今後はコアセンターと役割分担を図りつつ、学会、国際機関等との連携を通じて、世界に向けた情報発信に取り組むことが期待される。

広報については、従来は主に、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上の視点から実施してきたが、エコチル調査の進展に伴い成果が積み重ねられる時期であることから、従来の取組に加えて、成果の社会への還元を目的とした広報活動をより一層展開していくことが重要である。以上を背景として、令和4（2022）年度に、より効果的に成果の社会還元等を進めていくため広報戦略の見直しを行ったことは評価できる。また、13歳以降の調査の継続を念頭に、継続の意義等を説明する動画を作成したり、シンポジウムに参加者(子ども)と同世代向けの内容を取り入れるなど、13歳以降の調査を円滑に実施するための準備を着実に進めていることは評価できる。令和元（2019）年度から開始された「地域の子育て世代との対話事業」については、令和4（2022）年度に、事業の成果として、エコチル調査の成果を分かりやすく紹介するパンフレットや教育関係者向けのテキスト、対話の実践事例集を公開し、かつ、これらの改定等を進めていることは高く評価できる。さらに令和4（2022）年度に、出産・子育てに関する情報メディアにエコチル調査の成果を紹介する記事掲載を企画し、子育て世代の悩み・不安に応える情報を分かりやすく提供したことも高く評価できる。引き続き対話事業等を通して、子育て世代の悩み・不安に応える形で調査成果等を分かりやすく提供していく必要がある。

また、今後は、教育的観点から、さらに13歳以降の調査の円滑な推進という観点から、学校関係者の協力を得ることがさらに重要となってくる。このため、文部科学省や学校関係者等との情報共有を引き続き進め、より一層の連携を図ることが望まれる。

3-2 コアセンター

エコチル調査の実施主体として、メディカルサポートセンターや全国のユニッ

トセンターと緊密な連携を図りながら全体をとりまとめており、今後もこのような取組が継続されることが期待される。

令和元（2019）年度から予算をより効果的に運用するため、ユニットセンターに対する委託事業を含めエコチル調査の実施に関する予算事業を国立環境研究所が一体的に運営することとなった。コアセンターは適切な運営ができるよう、環境省と共に体制整備を着実に行うとともに、メディカルサポートセンター及びユニットセンターとより一層の連携を図り、エコチル調査を着実に実施することが期待される。なお、予算の執行に当たっては、第三次中間評価後の令和4（2022）年10月に会計検査院から生化学検査等の業務に係る契約について、適切な契約変更を行うよう是正改善の処置を要求されたところである。これを踏まえて、今後とも適切な改善措置を行っていくことが求められる。

エコチル調査の成果をより価値あるものにするために、現参加者率や質問票回収率の維持が重要であり、調査開始から14年目を迎えた現在も、いずれも高い水準を維持できていることは高く評価できる。これらの維持・向上のため、参加者コミュニケーション専門委員会が主体となり、ユニットセンターの取組の支援を行っている。引き続きユニットセンター実務担当者 Web 会議及びスタッフ研修の開催などを通して、ユニットセンター間の情報共有の場を設け、これらの取組を継続していくことが望まれる。

ユニットセンターにおける参加者の個人情報の管理については、個人情報の管理状況が適切であるかどうか、定期的に確認する体制を維持することが重要である。引き続きコアセンターが中心となり、適切な個人情報の管理がなされるような体制を維持していくことが望まれる。一方、エコチル調査を適切に実施するための各種ルール（個人情報管理や成果発表などを含む）を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行する上で重要であり、引き続きルールの周知徹底に努める必要がある。

4歳までの質問票や疾患情報登録、血中金属類、尿中コチニン、血中有機フッ素化合物（PFAS）、形態別ヒ素化合物、血中残留性有機汚染物質（POPs）等のデータ固定が終了するなど、着実に化学分析データを解析できる体制が整いつつあることは評価できる。今後も、化学分析等を計画的に進めるとともに、効率的・効果的に化学分析が実施されることが望まれる。

医学的検査及び精神神経発達検査の実施、詳細調査の結果返却、相談対応等については、引き続きメディカルサポートセンターと連携しつつ、各ユニットセンターのニーズに応じた支援が望まれる。

エコチル調査開始から14年目を迎え、コアセンターが中心となって「中心仮説ワークショップ」「疫学統計専門委員会」を開催する等、引き続きエコチル調査で得られた成果が諸外国にも通用するよう、成果のまとめ方及び論文の質の担保ができるような体制を整えていることは評価できる。

エコチル調査の全国データを用いた論文が423編（令和5（2023）年12月末までの累計）と着実に増えてきていることは評価できる。そのうち中心仮説に係る論文は51編であり、中心仮説に係る論文執筆の加速化が望まれる。エコチル調査で収集したデータを幅広く国内外の研究に有効活用されるよう、令和3（2021）年9月に「データ共有実施計画」を策定、令和5（2023）年度にデータ共有に係るシステムの構築を実施するなど、安全に情報共有を担うシステムの準備等を進めていることは評価できる。今後は、成果還元の一環として、集計データの公開や情報共有

の実施に向けた体制等の整備が期待される。また、エコチル調査シンポジウムや対話事業において環境省等と連携している他、アウトリーチ活動として国立環境研究所一般公開イベントにおける取組も評価できる。

国際連携については、「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、国際学会等への専門家及び若手研究者の派遣等の学術的な取組を行っており、今後も環境省と役割分担を図りつつ、学会、国際機関等との連携の推進することが期待される。

特筆すべき事項として、環境省が改定した基本計画に基づき、研究計画の改定を行うとともに、13歳以降の調査においては子どもも主体となることを見据え、子ども向けに分かりやすくエコチル調査を説明する資料を作成したり、Webを使った参加者ポータル整備を進めるなど、子どものインフォームド・アセントに向けた取組や子どもの参加意識を高めるための取組を着実に進めていることは高く評価できる。13歳以降は、Web上に設けられた参加者ポータルを通じた調査となる。参加者ポータルは参加者（子ども）にアクセスしてもらうことで情報収集が可能となるものであり、子どもの参加意識を高めることが重要である。

また、第三次中間評価後、新型コロナウイルスの感染拡大防止を念頭に、コアセンターは環境省及び各ユニットセンターと協議を行いながら対応を進めてきた。エコチル調査全体として地域や参加者が不安にならないよう努めてきたことは評価に値する。

3-3 メディカルサポートセンター

医学的検査及び精神神経発達検査について、主要専門分野のプロジェクトを設け、コアセンター経由で寄せられるユニットセンターからの問い合わせに適宜回答し、得られるデータの質を維持していることは評価できる。

令和5（2023）年度も、質問票等の検討に当たり、Webアンケート等を活用したメール審議などを取り入れ、効率的かつ調査スケジュールに沿って着実に検討を進めていることは評価できる。今後は、調査成果の質を担保するためのデータ管理やクリーニングの検討、遺伝子解析の実施に向けた検討を進めるとともに、13歳以降のフォローアップ項目の検討を引き続き進めることが期待される。

令和4（2022）年度から、エコチル調査で収集した生体試料のゲノム・遺伝子解析を進めており、遺伝子解析から得られた情報に求められる高い機密性を踏まえ、関連指針やガイドラインを遵守した厳重なデータ管理体制を構築しながら、着実に解析を進めていく必要がある。

成果の社会への還元の一環として、全国データを用いた論文に関してメディカルサポートセンターからは423編のうち32編（令和5（2023）年12月末までの累計）を発表していることは評価できる。また、日本語版ASQ-3（乳幼児発達検査スクリーニング質問紙）、「食物アレルギー診療ガイドライン2021」、「食物アレルギーの診療の手引き2020」、「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2023」等においてエコチル調査の成果が活用されたことは高く評価できる。引き続き、中心仮説に係る論文に関しても順次執筆を加速化していくことが望まれる。また、エコチル調査シンポジウムや対話事業において環境省等と連携していることも評価できる。エコチル調査の全体調査に関する成果発表については、論文の質が担保できるような体制構築を、コアセンターと協働して検討することが望まれる。

3-4 ユニットセンター

10万組の親子を対象に実施しているエコチル調査において、より多くの参加者の調査継続と年に2回送付する質問票の回答率を高めることが、調査の質の向上及び国民に対して有益な研究成果を還元するために必要不可欠かつ重要な事項である。調査開始から14年目を迎えた現在、現参加者率は高い水準で維持されているにもかかわらず、質問票回収率は参加者の年齢とともに低下傾向にある(表1、表2)。併せて、ユニットセンター間における現参加者率の差は9.6%と大きくないものの、質問票の回収率に依然として格差(12%台)が見られる。各ユニットセンターの業務全般において、PDCAサイクルの中で調査地域の特性や効率性を勘案し、質問票の回収率の向上につながるような取組を行うことを求めたい。特に、全国平均より質問票回収率が低いユニットセンターについては、原因を分析し、改善に導く一層の工夫が必要である。

エコチル調査の開始から14年目を迎え、調査の成果が積み重ねられる時期に差し掛かり、今後その成果を社会に適切に還元していくことが重要である。成果還元としては、全国データを用いた論文423編(うち中心仮説に係る論文51編、令和5(2023)年12月末までの累計)のうちユニットセンターからは359編(中心仮説41編)が学術雑誌に掲載された。また、令和5(2023)年度には、学会での発表125件(うちユニットセンター119件)、一般の方や参加者向けの成果発表(講演会、ホームページ掲載、ニューズレター等)265件(うちユニットセンター263件)、論文成果に係るプレスリリース36件(うちユニットセンター33件、いずれも令和5(2023)年1月から令和5(2023)年12月末時点)が実施された。以上のようなユニットセンターの研究発表や活動の中のいくつかは、学会等の表彰・褒章も受けており高く評価できる。

また、妊娠前のBMI別に算出した妊婦の体重増加曲線の見本の策定においてエコチル調査の成果が活用されたこと、「産婦人科診療ガイドライン 産科編2023」においてユニットセンター関係者の執筆した論文が引用文献の一つとして掲載されたことは高く評価できる。

なお、エコチル調査を適切に実施するための各種ルール(個人情報管理や成果発表などを含む)について、個人情報の漏洩につながるメールの誤送信が1件あり、また、成果発表の届・報告について遅延した事例が若干見られた。情報セキュリティ等に対する意識の向上を図るとともに、各ユニットセンターにおいてルールを周知徹底していくことが重要である。

環境省が改定した基本計画に基づき参加者が18歳に達するまで調査が継続され、参加者が13歳以降の調査においては子ども本人も調査の主体となる。ユニットセンターはエコチル調査の開始時から参加している子どもや保護者に寄り添って調査を進めており、今後は、より一層子どもに寄り添いながらエコチル調査に対する理解を促し、参加意識を高めることが求められる。

本年度の評価においては、①参加者の参加継続と質問票の回収につながるフォローアップ状況、②エコチル調査の業務全般におけるPDCAの取組、③エコチル調査の成果、④主要なルールの遵守状況及び管理状況を勘案した評価方法を設定した。②については、参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上、コミュニケーション活動、アウトリーチ活動、その他の成果の社会還元といった多角的視点からユニットセンターの優れた取組を評価した。③については、令和4(2022)年度から、エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章を評価項目として取り入れた。

なお、アウトリーチ活動については、令和2（2020）年度から令和4（2022）年度にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため活動が制限されていたにもかかわらず、「新しい生活様式」に基づきつつ、参加者や地域への成果の還元、子どもの参加意識の向上をねらいとした取組について各ユニットセンターで工夫されたことを特筆する。

4. 総括

平成30（2018）年度に行った第三次中間評価後、引き続き、現参加者率や質問票回収率が高い水準で維持されていること、着実に学童期検査や化学分析が進んでいること、論文として成果が増えていること、学術発表に加えて広報やコミュニケーション活動・国際連携を行っていること、成果の社会還元を進めていることなど、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りつつ、エコチル調査を着実に進めていることは高く評価できる。また、これまでに、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に貢献してきたことも評価できる。今後は、参加者が13歳以降18歳に達するまで調査を継続することを踏まえ、より一層子どものエコチル調査に対する理解を促し、コミュニケーション活動を工夫することにより、調査参加者の参加意識を高めていくことが重要である。

また、エコチル調査の成果を国民に最大限還元できるように、学童期検査の着実な実施や化学分析等の計画的な実施、中心仮説に係る論文をはじめとする論文執筆の加速化、「地域の子育て世代との対話事業」等を進めることが求められる。

加えて、13歳以降の調査を視野に入れ、エコチル調査の新たなフェーズに合わせた評価の在り方について検討する必要がある。特に、第五次中間評価の実施が予定されている令和10（2028）年度は、すべての参加者が13歳に達し、基本計画が当初示していたフォローアップ期間が終了する年度である。基本計画と照らし合わせて、調査のねらい等の達成状況を評価することが考えられる。

ユニットセンターにおける総合評価指標

（1）フォローアップ状況

○ 現参加者率【表1】

対象である子どもの出生者数に対し、調査参加者数の比率を算出した。調査参加者数とは、出生した子どものうち、打ち切り数（本人死亡、代諾者消失など）、他ユニットセンターへの転出、転入を反映した人数である。

[評価] 各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する（評価は行わない）。

○ 質問票回収状況（出生後6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）【表2】

令和5（2023）年9月25日時点で質問票送付後6ヶ月経過した出生後6ヶ月から小5までの発送数に対する回収数を用いて算出。総合的な質問票の回収状況を確認する指標として位置付ける。

[評価] 回収率が81.3%（平均）以上を◎とする。また、令和4（2022）年度及び令和5（2023）年度に継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上の場合は◎を加点する。

○ 質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と小5回収率の差）【表2】

出生後6ヶ月の質問票回収率と小5時の質問票回収率の差を算出。直近の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

[評価] 差異20.0%未満を◎とする。

○ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表3】

6ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける令和4（2022）年9月25日時点と令和5（2023）年9月25日時点での年齢別回収率の回帰直線（ $Y=aX+b$ ）の傾き（a）の差異をみる。直近1年間の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

[評価] 傾き差異がプラスの場合を◎とする。

（2）エコチル調査に係る業務全般に関する取組

○ 「参加者の調査参加へのモチベーション維持」や「質問票回収率の維持・向上」に関する取組のPDCA評価【表4-1】

参加者の調査参加へのモチベーションの維持、質問票回収率の維持・向上について、PDCAサイクル*に則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

[評価] PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を◎とする。

○ 成果の社会還元に関するPDCA評価【表4-2】

コミュニケーション活動、アウトリーチ活動、その他の成果の社会還元に関する取組について、PDCAサイクル*に則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

[評価] PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を◎とする。

※PDCAの考え方

- ①（P：計画）これまでの取組の結果を的確に分析をして、その結果をよく勘案して計画を立案する
- ②（D：実施）（P）を受けて、具体的に取組を実施する
- ③（C：評価）（D）の結果を的確かつ客観的に分析を行い説得力のある根拠を示す
- ④（A：改善）（C）での考察を来期の計画に反映することを示す
- ⑤効率性を考慮した費用対効果を十分に検討する

（3）エコチル調査の成果

○ エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章【表5-2】

エコチル調査の研究成果や活動への第三者評価を確認する指標として位置づける。

[評価] エコチル調査の研究成果による研究発表やユニットセンターの活動に対し学会や国・自治体等から表彰・褒章があった場合*を◎とする。

※学会賞、若手研究者賞、奨励賞、環境教育・環境保全に関する賞、知事褒章など。研究者個人が受けた賞であっても、エコチル調査の研究成果や活動が主な授賞理由となっている場合はそれを含む。教職員や学生を対象として大学が行う学内表彰の実績は除く。

○ 学術論文等の発表【表5-3】

エコチル調査成果の社会還元の一環として、学術論文等の発表が実施されているかを確認する指標として位置づける。

[評価] 令和4年11月から令和5年10月31日までの全国データを用いた論文について、論文数だけでなく、その質も含めた総合的な観点から、特に優れた論文

発表を行っている場合を◎とし、S 評価のための加点要素として扱う。

(4) エコチル調査ルール¹の遵守及び管理状況【表 6、表 7】

エコチル調査で定める各種ルールの遵守状況やその管理状況を確認するための指標として位置付ける。

[評価] 軽微でないルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価において S・A 評価の対象としない。また、2 回以上(年度をまたぐ場合を含む) 同じ内容でルール違反した場合は総合評価を C とする。

総合評価の考え方

S： ◎が 5 個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が 4 個

A： ◎が 3 個以上ある(学術論文発表を除く)

B： ◎が 1 個又は 2 個ある(学術論文発表を除く)

C： ◎がない又は 2 回以上(年度をまたぐ場合も含む) 同じルール違反がある
但し、ルール違反等があった場合は◎が 3 個以上の場合でも B 以下となる

各ユニットセンターの総評

北海道ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価：（2個）
動画等を通じて参加者の興味・関心を持続させていることや、13歳以降の調査について周知するハガキの工夫が他ユニットセンターの参考にもなり高く評価できる。
また、オンライン市民講座などにより参加者や一般に成果を還元していること、次世代の研究者育成に向けた取組を具体的に進めていることが高く評価できる。

宮城ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価：（2個）
オンラインセミナーの開催などによる参加者との双方向コミュニケーションの工夫が他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
また、オープンキャンパスや SNS（X(Twitter)）を活用して高校生や一般に成果を還元する科学コミュニケーションの取組や、研究用のポータルサイトやデータベースを活用するなどにより論文作成の効率化を進めていることは高く評価できる。

福島ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価：（2個）
子ども向けの配付物（迷路、ボールペン、応援メッセージ）の工夫や食育・環境などのセミナーにより参加者(子ども)のモチベーションを維持していること、ふれあい会など参加者との双方向コミュニケーションの機会を継続的に提供していること等が他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
また、地域のインフルエンサーや施設の協力を得て参加者や一般の認知度向上を進めていること、学校保健・教育関係者との関係構築を進めていること、学術ワーキンググループを設置し論文作成を促進していることが高く評価できる。
- ◎ エコチル調査の成果：(学術論文等の発表について加点非対象)

多くの論文を発表していること、参加者の関心が高い課題を取り扱っていることが高く評価できる。

また、「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023」においてユニットセンター関係者の執筆した論文が引用文献として掲載されたことは高く評価できる。

千葉ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（2個）
子ども向けの動画配信やセミナーなど、参加者(子ども)の動機付けに工夫を凝らしていることが他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
また、参加者(子ども)向けに論文を紹介する冊子を作成し調査の意義を伝えていることが高く評価できる。
- ◎ エコチル調査の成果：(研究成果や活動に対する表彰・褒章)
発表論文に対する学会からの表彰が1件ある。

神奈川ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

甲信ユニットセンター（山梨大学）

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

甲信サブユニットセンター（信州大学）

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：

令和4（2022）年度、令和5（2023）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上である。

- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

富山ユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
令和4（2022）年度、令和5（2023）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上である。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（1個）
成果発表の小冊子を作成し、行政や医療機関、教育機関に多数配布し好評を得ていること、積極的にプレスリリースを行いメディアで取り上げられていることが高く評価できる。
- ◎ エコチル調査の成果：（学会等からの表彰・褒章）
発表論文に対する学会からの表彰が1件ある。
- ◎ エコチル調査の成果：（学術論文等の発表について加点対象）
多くの論文を発表し、いずれもインパクトファクターが高いことが高く評価できる。

愛知ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（2個）
13歳以降の調査への同意取得に向けて、参加者の意見を収集した上で、具体的な取組を計画し、効果を上げていることが他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
また、イベントの開催においても参加者の要望を把握し、多くの参加者を確保して成果の還元や13歳以降の調査の継続依頼につなげていることが高く評価できる。

- ◎ エコチル調査の成果：(研究成果や活動に対する表彰・褒章)
発表論文に対する学会からの表彰が1件ある。

京都ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
令和4（2022）年度、令和5（2023）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上である。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ルールの遵守状況：
個人情報の漏洩につながるメールの誤送信が1件あった。コアセンターに報告するなどの対応が速やかに行われたものの、環境省への報告に遅延があった。その後、メール等の送信前にアドレス等のダブルチェックをするなど再発防止が進められている。今後は、これまで以上に情報セキュリティに対する全スタッフの意識の向上を図るとともに、ルールに定められた報告を徹底するための取組が必要である。

大阪ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（1個）
論文の概要版や子育てコラムに多くのアクセスがあり、社会還元の効果が見られることが高く評価できる。
- ◎ エコチル調査の成果：(学術論文等の発表について加点非対象)
複数の中心仮説に関する論文を発表し、また、論文を多く発表していることが高く評価できる。

兵庫ユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：

高い回収率を維持できている。

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

鳥取ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
令和4（2022）年度、令和5（2023）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上である。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

高知ユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（1個）
地域メディアを活用し、定期的にわかりやすく成果還元を継続していることが高く評価できる。
- ◎ エコチル調査の成果：（研究成果や活動に対する表彰・褒章）
発表論文に対する学会からの表彰が1件ある。

産業医科大学サブユニットセンター

総評：A

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（1個）
キャラクターコンテストや参加者モニターにより参加者のモチベーション維持に取組んでいることや、小・中学校・高校等の協力体制構築が他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

九州大学サブユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査の成果：(学術論文等の発表について加点非対象)
複数の中心仮説に関する論文を発表し、また、インパクトファクターが高いことが高く評価できる。

熊本大学サブユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

宮崎大学サブユニットセンター

総評：S

- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
高い回収率を維持できている。
- ◎ 質問票回収状況（6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率）：
令和4（2022）年度、令和5（2023）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上である。
- ◎ 質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と小5回収率の差）：
回収率の低減を抑制できている。
- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- ◎ エコチル調査業務全般に関する取組のPDCA評価：（1個）
子どもアンケートへの感謝状送付、協力医療機関からエコチル調査参加への感謝の声掛けといった参加者(子ども)のモチベーションをあげる取組が他ユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

琉球大学サブユニットセンター

総評：B

- ◎ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）：
昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

ユニットセンター 総合評価一覧

| 評価項目 | フォローアップ状況 | | | | | | | | | | エコチル調査に係る業務全般に関する取組 | | | | エコチル調査の成果 | | | | エコチル調査ルールの遵守及び管理状況【表6、表7】 | | 総合評価 | | | | | 総合評価(案) | ユニット/サブユニットセンター名 |
|----------------------|----------------|------------------------------------|-------------------------|---|----------------------|--|-------------|---------------|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|----|------------------------|----|----------------------|-------------|-----|-----|-------------------------------------|-------------|------|-----|-------------|----|---------|------------------|------------------|
| | 現参加者率【暫定】 | 質問票の回収率(累計) | | | | | | | | 参加者の調査参加へのモチベーション維持、質問票回収率の維持・向上 | 成果の社会還元 | | 研究成果や活動に対する表彰・褒章 | | 学術論文等の発表 | | | | | | | | | | | | |
| | 現参加者数÷登録者数【表1】 | 質問票回収状況(出生後6ヶ月～小5までの合計の質問票回収率)【表2】 | | 質問票回収率の維持状況(出生後6ヶ月回収率と小5回収率の差)【表2】 | | 質問票回収率の直近の改善状況(昨年度の回収率の傾向比較)【表3-1】(※2022年9月25日時点から2023年9月25日時点までの期間) | | 特に優れた取組【表4-1】 | 特に優れた取組【表4-2】 | 学会等からの表彰・褒章【表5-2】 | 特に優れた学術論文や成果発表【表5-3】 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価基準 | - | - | ◎:令和5年度の回収率が81.3%(平均)以上 | ◎:令和4年度及び令和5年度の回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上 | ◎:回収率の差異が20.0%(平均)未満 | | ◎:傾きの差異がプラス | | ◎:PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合 | | ◎:エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等から表彰・褒章があった場合 | | ◎:特に優れた学術論文や成果発表があった場合 | | ルール違反の有無 ※軽微なものは含まない | 該当ルールと事案の種類 | ◎個数 | ◎個数 | ◎個数(うち加点対象) | 件数 | | | | | | | |
| ユニット/サブユニットセンター名 | 現参加者率(参考) | 回収率 | ランキング(参考) | 評価 | 回収率の差異 | ランキング(参考) | 評価 | 傾きの差 | ランキング(参考) | 評価 | 互選数 | 評価 | 互選数 | 評価 | 表彰等件数 | 評価 | 互選数 | 評価 | <input checked="" type="checkbox"/> | 該当ルールと事案の種類 | ◎個数 | ◎個数 | ◎個数(うち加点対象) | 件数 | 総合評価(案) | ユニット/サブユニットセンター名 | |
| 1 北海道ユニットセンター | 92.7 | 80.2 | 13 | | 24.3 | 17 | | 0.1211 | 1 | ◎ | 9 | ◎ | 11 | ◎ | - | - | 0 | | - | - | 1 | 2 | - | 0 | A | 北海道 | |
| 2 宮城ユニットセンター | 92.3 | 76.7 | 18 | | 23.7 | 15 | | 0.0543 | 11 | ◎ | 6 | ◎ | 14 | ◎ | - | - | 1 | | - | - | 1 | 2 | - | 0 | A | 宮城 | |
| 3 福島ユニットセンター | 92.5 | 80.0 | 14 | | 24.2 | 16 | | 0.0669 | 9 | ◎ | 13 | ◎ | 11 | ◎ | - | - | 10 | ◎ | - | - | 1 | 2 | 1(0) | 0 | A | 福島 | |
| 4 千葉ユニットセンター | 86.7 | 80.9 | 12 | | 18.1 | 8 | ◎ | 0.0272 | 17 | ◎ | 12 | ◎ | 7 | ◎ | 1 | ◎ | 5 | | - | - | 2 | 2 | 1(1) | 0 | A | 千葉 | |
| 5 神奈川ユニットセンター | 90.4 | 83.0 | 6 | ◎ | 18.0 | 7 | ◎ | 0.0235 | 18 | ◎ | 0 | | 0 | | - | - | 0 | | - | - | 3 | - | - | 0 | A | 神奈川 | |
| 6 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 88.8 | 78.4 | 15 | | 20.2 | 10 | | 0.0958 | 4 | ◎ | 2 | | 2 | | - | - | 5 | | - | - | 1 | - | - | 0 | B | 山梨大学 | |
| 7 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 94.0 | 88.9 | 1 | ◎ | 15.4 | 5 | ◎ | 0.0308 | 16 | ◎ | 1 | | 2 | | - | - | 1 | | - | - | 4 | - | - | 0 | A | 信州大学 | |
| 8 富山ユニットセンター | 93.3 | 86.5 | 3 | ◎ | 15.7 | 6 | ◎ | 0.0728 | 7 | ◎ | 4 | | 8 | ◎ | 1 | ◎ | 10 | ◎ | - | - | 4 | 1 | 2(2) | 0 | S | 富山 | |
| 9 愛知ユニットセンター | 94.5 | 81.3 | 11 | ◎ | 20.3 | 11 | | 0.0078 | 19 | ◎ | 13 | ◎ | 13 | ◎ | 1 | ◎ | 0 | | - | - | 2 | 2 | 1(1) | 0 | A | 愛知 | |
| 10 京都ユニットセンター | 94.5 | 87.0 | 2 | ◎ | 12.0 | 1 | ◎ | 0.0519 | 12 | ◎ | 5 | | 0 | | - | - | 1 | | ✓ | ※1 | 4 | - | - | 1 | B | 京都 | |
| 11 大阪ユニットセンター | 96.3 | 82.8 | 8 | ◎ | 13.6 | 2 | ◎ | 0.0371 | 15 | ◎ | 2 | | 7 | ◎ | - | - | 13 | ◎ | - | - | 3 | 1 | 1(0) | 0 | A | 大阪 | |
| 12 兵庫ユニットセンター | 94.5 | 81.5 | 10 | ◎ | 24.8 | 18 | | 0.0909 | 6 | ◎ | 1 | | 4 | | - | - | 0 | | - | - | 2 | - | - | 0 | B | 兵庫 | |
| 13 鳥取ユニットセンター | 94.8 | 84.0 | 5 | ◎ | 21.1 | 13 | | 0.0594 | 10 | ◎ | 4 | | 0 | | - | - | 0 | | - | - | 3 | - | - | 0 | A | 鳥取 | |
| 14 高知ユニットセンター | 92.9 | 77.8 | 16 | | 21.2 | 14 | | 0.0950 | 5 | ◎ | 3 | | 8 | ◎ | 1 | ◎ | 0 | | - | - | 1 | 1 | 1(1) | 0 | A | 高知 | |
| 15 産業医科大学サブユニットセンター | 95.8 | 82.9 | 7 | ◎ | 19.7 | 9 | ◎ | 0.0442 | 13 | ◎ | 9 | ◎ | 5 | | - | - | 1 | | - | - | 3 | 1 | - | 0 | A | 産業医科大 | |
| 16 九州大学サブユニットセンター | 93.5 | 82.6 | 9 | ◎ | 21.1 | 12 | | 0.0721 | 8 | ◎ | 0 | | 1 | | - | - | 9 | ◎ | - | - | 2 | - | 1(0) | 0 | B | 九州大学 | |
| 17 熊本大学サブユニットセンター | 94.7 | 77.3 | 17 | | 14.9 | 4 | ◎ | 0.0393 | 14 | ◎ | 4 | | 1 | | - | - | 0 | | - | - | 2 | - | - | 0 | B | 熊本大学 | |
| 18 宮崎大学サブユニットセンター | 93.6 | 85.8 | 4 | ◎ | 14.7 | 3 | ◎ | 0.0983 | 3 | ◎ | 7 | ◎ | 1 | | - | - | 1 | | - | - | 4 | 1 | - | 0 | S | 宮崎大学 | |
| 19 琉球大学サブユニットセンター | 91.5 | 76.7 | 18 | | 26.5 | 19 | | 0.1014 | 2 | ◎ | 0 | | 0 | | - | - | 0 | | - | - | 1 | - | - | 0 | B | 琉球大学 | |

※1 個人情報の漏洩につながるメールの誤送信が1件あった。コアセンターに報告するなどの対応が速やかに行われたものの、環境省への報告に遅延があった。その後、メール等の送信前にアドレス等のダブルチェックをするなど再発防止が進められている。

総合評価(案)

- S: ◎が5個以上あり、且つ、フォローアップ状況の◎が4個
 - A: ◎が3個以上ある(学術論文発表等を除く)
 - B: ◎が1個又は2個ある(学術論文発表等を除く)
 - C: ◎がない又は2回以上(年度をまたぐ場合も含む)同じルール違反がある
- ※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が3個以上の場合でもB以下となる

表1 子どもの現参加者数【令和5年9月末時点】 ※現参加者率の高い順に表示

| ユニットセンター／ サブユニットセンター | 出生数 | 他 UC へ の転出者 数 | 他 UC か らの転入 者数 | 打ち切り | | | | | | 現参加者 | | 集計日 | 現参加者 数 (計算数) | 現参加者 率 (%) |
|-------------------------|---------|---------------------|----------------------|------|------------------------|-----|---------------------|------|-------------------------|------------|----|------|--------------------|------------------|
| | | | | 本人死亡 | 協力とりやめ・代諾者消失 | | 子氏名等 の情報提 供拒否 | 住所不明 | その他の理由 により調査継 続不能 | 不明・ その他 | | | | |
| | | | | | 児の個人情報 の削除を伴う もの | | | | | | | | | |
| 大阪ユニットセンター | 7,851 | 38 | 59 | 19 | 217 | 20 | 1 | 60 | 11 | 7,564 | 32 | 9/26 | 7,564 | 96.3 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 2,952 | 20 | 30 | 6 | 118 | 19 | 1 | 9 | 1 | 2,827 | 0 | 9/28 | 2,827 | 95.8 |
| 鳥取ユニットセンター | 3,036 | 19 | 9 | 7 | 129 | 2 | 1 | 9 | 1 | 2,879 | 0 | 9/27 | 2,879 | 94.8 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 3,012 | 29 | 27 | 11 | 142 | 12 | 0 | 4 | 0 | 2,853 | 0 | 9/28 | 2,853 | 94.7 |
| 兵庫ユニットセンター | 5,069 | 59 | 52 | 8 | 190 | 25 | 0 | 17 | 56 | 4,791 | 0 | 9/22 | 4,791 | 94.5 |
| 京都ユニットセンター | 3,898 | 46 | 45 | 11 | 150 | 26 | 0 | 44 | 9 | 3,683 | 0 | 9/25 | 3,683 | 94.5 |
| 愛知ユニットセンター | 5,554 | 31 | 76 | 11 | 249 | 6 | 0 | 69 | 23 | 5,247 | 0 | 9/28 | 5,247 | 94.5 |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 2,679 | 20 | 19 | 5 | 150 | 10 | 0 | 3 | 1 | 2,519 | 0 | 9/27 | 2,519 | 94.0 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 1,834 | 33 | 16 | 3 | 94 | 19 | 0 | 4 | 0 | 1,716 | 10 | 9/25 | 1,716 | 93.6 |
| 九州大学サブユニットセンター | 4,565 | 19 | 54 | 9 | 243 | 57 | 2 | 75 | 5 | 4,266 | 0 | 9/27 | 4,266 | 93.5 |
| 富山ユニットセンター | 5,389 | 57 | 28 | 10 | 307 | 96 | 0 | 13 | 1 | 5,029 | 0 | 9/27 | 5,029 | 93.3 |
| 高知ユニットセンター | 6,920 | 65 | 16 | 20 | 375 | 34 | 0 | 33 | 16 | 6,427 | 1 | 9/27 | 6,427 | 92.9 |
| 北海道ユニットセンター | 7,934 | 52 | 57 | 22 | 548 | 47 | 0 | 14 | 2 | 7,353 | 0 | 9/28 | 7,353 | 92.7 |
| 福島ユニットセンター | 12,866 | 230 | 144 | 25 | 780 | 188 | 0 | 65 | 13 | 11,897 | 0 | 9/27 | 11,897 | 92.5 |
| 宮城ユニットセンター | 8,999 | 135 | 184 | 23 | 616 | 228 | 6 | 92 | 2 | 8,309 | 0 | 9/28 | 8,309 | 92.3 |
| 琉球大学サブユニットセンター | 863 | 13 | 10 | 1 | 52 | 0 | 0 | 17 | 0 | 790 | 1 | 9/27 | 790 | 91.5 |
| 神奈川ユニットセンター | 6,404 | 42 | 69 | 9 | 504 | 7 | 13 | 114 | 0 | 5,791 | 0 | 9/28 | 5,791 | 90.4 |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 4,490 | 41 | 17 | 12 | 380 | 10 | 1 | 85 | 0 | 3,988 | 0 | 9/28 | 3,988 | 88.8 |
| 千葉ユニットセンター | 6,010 | 68 | 101 | 9 | 746 | 27 | 26 | 50 | 1 | 5,211 | 0 | 9/28 | 5,211 | 86.7 |
| 合計 | 100,325 | 1,017 | 1,013 | 221 | 5,990 | 833 | 51 | 777 | 142 | 93,140 | 44 | 9月末 | 93,140 | 93.0 |

※子どもの出生数は確定値。その他の値は、令和5年9月末現在の暫定値である。

※「その他の理由により調査継続不能」は、出生時に児の名前を把握できなかったため調査を打ち切りとしたなど。

表 1 別紙 現参加者率の推移

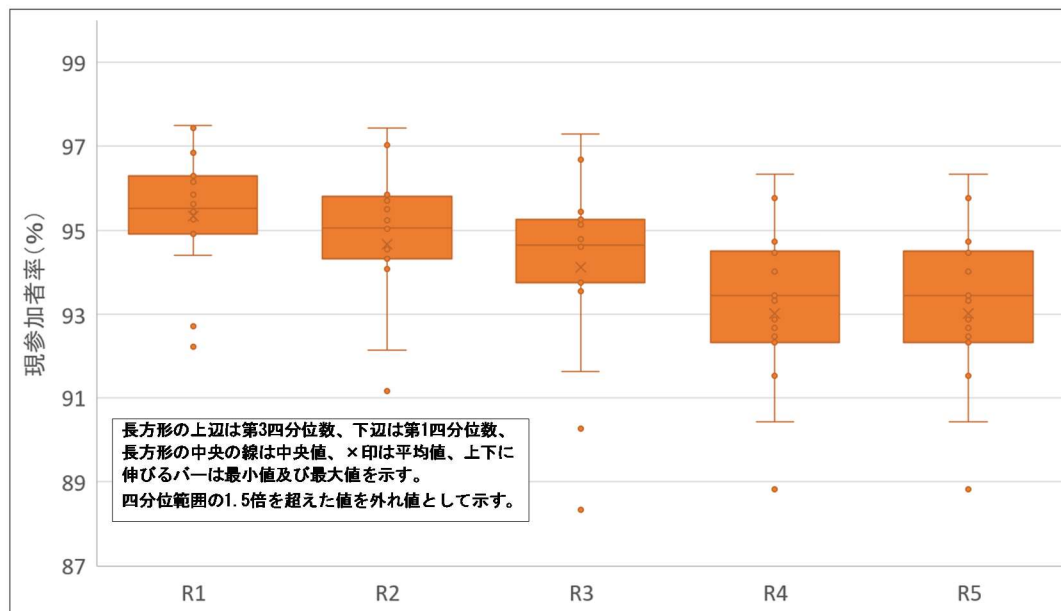


図1 現参加者率のばらつき推移

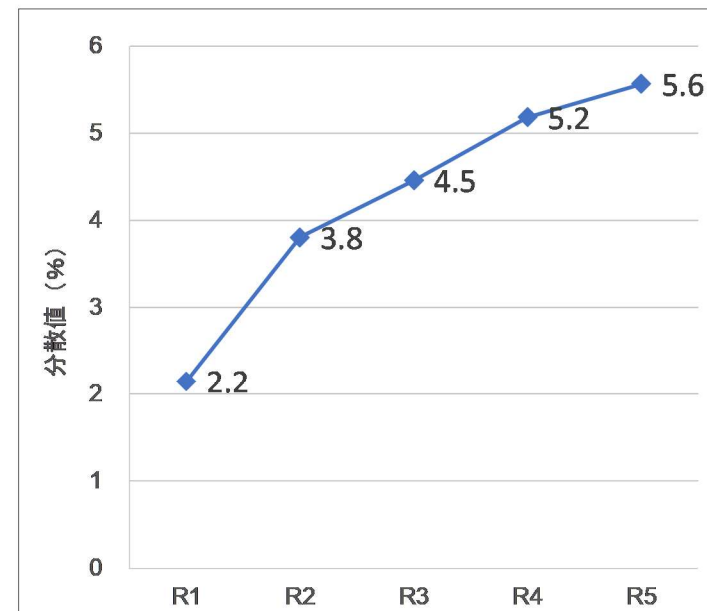


図2 現参加者率 分散値の推移

| (%) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均 | 95.3 | 94.7 | 94.1 | 93.6 | 93.0 |
| 分散値 | 2.2 | 3.8 | 4.5 | 5.2 | 5.6 |
| 最大値 | 97.5 | 97.4 | 97.3 | 96.9 | 96.3 |
| 最小値 | 92.2 | 89.3 | 88.3 | 87.4 | 86.7 |
| 第1四分位数 | 95.0 | 94.4 | 93.8 | 93.0 | 92.4 |
| 第3四分位数 | 96.2 | 95.8 | 95.2 | 95.0 | 94.5 |
| 範囲 | 5.3 | 8.1 | 9.0 | 9.5 | 9.6 |

※令和元年度は2019年9月末時点での集計値
 ※令和2年度は2020年9月末時点での集計値
 ※令和3年度は2021年9月末時点での集計値
 ※令和4年度は2022年9月末時点での集計値
 ※令和5年度は2023年9月末時点での集計値

表2別紙 質問票回収率の推移

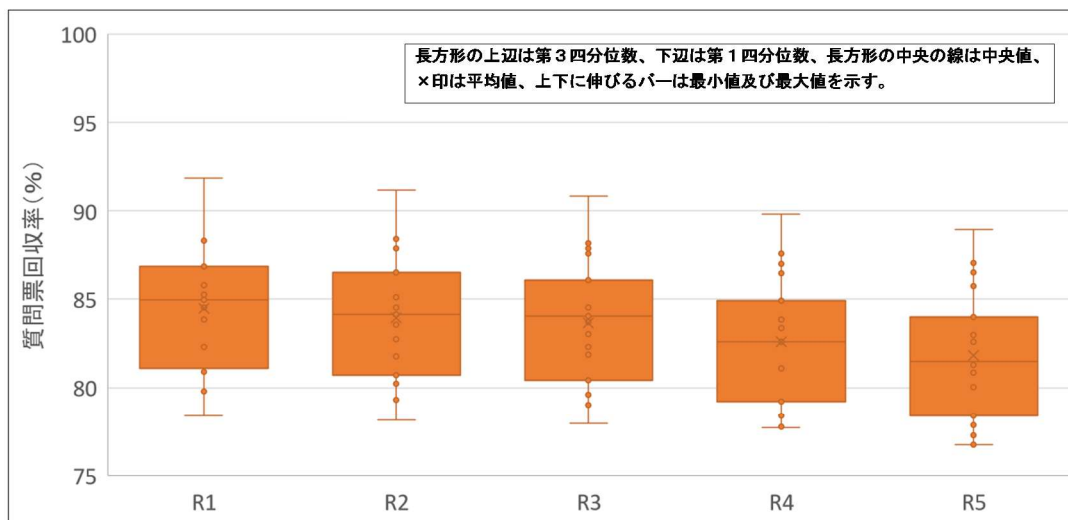


図1 質問票回収率のばらつきの推移

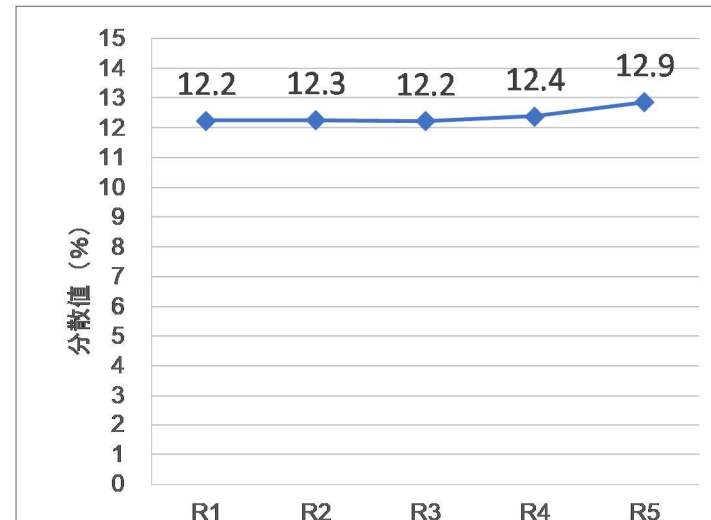


図2 質問票回収率 分散値の推移

| (%) | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均 | 84.1 | 83.5 | 83.2 | 82.2 | 81.3 |
| 分散値 | 12.2 | 12.3 | 12.2 | 12.4 | 12.9 |
| 最大値 | 91.9 | 91.2 | 90.8 | 89.8 | 88.9 |
| 最小値 | 78.4 | 78.1 | 78.0 | 77.7 | 76.7 |
| 第1四分位数 | 81.7 | 81.2 | 81.2 | 80.2 | 79.2 |
| 第3四分位数 | 86.3 | 85.8 | 85.4 | 84.4 | 83.5 |
| 範囲 | 13.5 | 13.0 | 12.9 | 12.1 | 12.2 |

※令和元年度は2019年9月24日時点での集計値
 ※令和2年度は2020年9月25日時点での集計値
 ※令和3年度は2021年9月30日時点での集計値
 ※令和4年度は2022年9月25日時点での集計値
 ※令和5年度は2023年9月25日時点での集計値

表3-1 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）

【令和5年9月25日時点の累積、6ヶ月後】

※差が正に大きい順に表示

| ユニットセンター／サブユニットセンター | R4、R5 の一次直線の傾き ^{注1)} | | |
|---------------------|-------------------------------|-------------------|--------------|
| | R4 ^{注2)} | R5 ^{注3)} | 差 (R5-R4) |
| 北海道ユニットセンター | -1.1185 | -0.9974 | 0.1211 |
| 琉球大学サブユニットセンター | -0.9316 | -0.8301 | 0.1014 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | -0.7110 | -0.6127 | 0.0983 |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | -0.7963 | -0.7005 | 0.0958 |
| 高知ユニットセンター | -0.7787 | -0.6837 | 0.0950 |
| 兵庫ユニットセンター | -1.0395 | -0.9486 | 0.0909 |
| 富山ユニットセンター | -0.5975 | -0.5248 | 0.0728 |
| 九州大学サブユニットセンター | -0.7823 | -0.7102 | 0.0721 |
| 福島ユニットセンター | -0.9763 | -0.9094 | 0.0669 |
| 鳥取ユニットセンター | -0.8250 | -0.7656 | 0.0594 |
| 宮城ユニットセンター | -0.9920 | -0.9377 | 0.0543 |
| 京都ユニットセンター | -0.5216 | -0.4697 | 0.0519 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | -0.6630 | -0.6188 | 0.0442 |
| 熊本大学サブユニットセンター | -0.4245 | -0.3852 | 0.0393 |
| 大阪ユニットセンター | -0.4613 | -0.4241 | 0.0371 |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | -0.6582 | -0.6274 | 0.0308 |
| 千葉ユニットセンター | -0.5936 | -0.5664 | 0.0272 |
| 神奈川ユニットセンター | -0.6789 | -0.6554 | 0.0235 |
| 愛知ユニットセンター | -0.8813 | -0.8735 | 0.0078 |
| コアセンター | — | — | — |
| 総計(値は平均値) | -0.7595 | -0.6969 | 0.0626 |
| 標準偏差(SD) | 0.1918 | 0.1778 | 0.0307 |

注：

- 1) 質問票の累積回収率（発送後6か月経過後）を用いて、生後6か月～11歳子ども、小1～小5の質問票回収率の低下を、回帰直線の傾きとして評価
- 2) R4：2022年9月25日時点における、生後6か月～10歳、小1～小4を、それぞれXとして1～21を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。
- 3) R5：2023年9月25日時点における、生後6か月～11歳子ども、小1～小5を、それぞれXとして1～23を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。（表3-2参照）

表3-2 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較：グラフ）

【令和5年9月25日時点の累積、6ヶ月後】

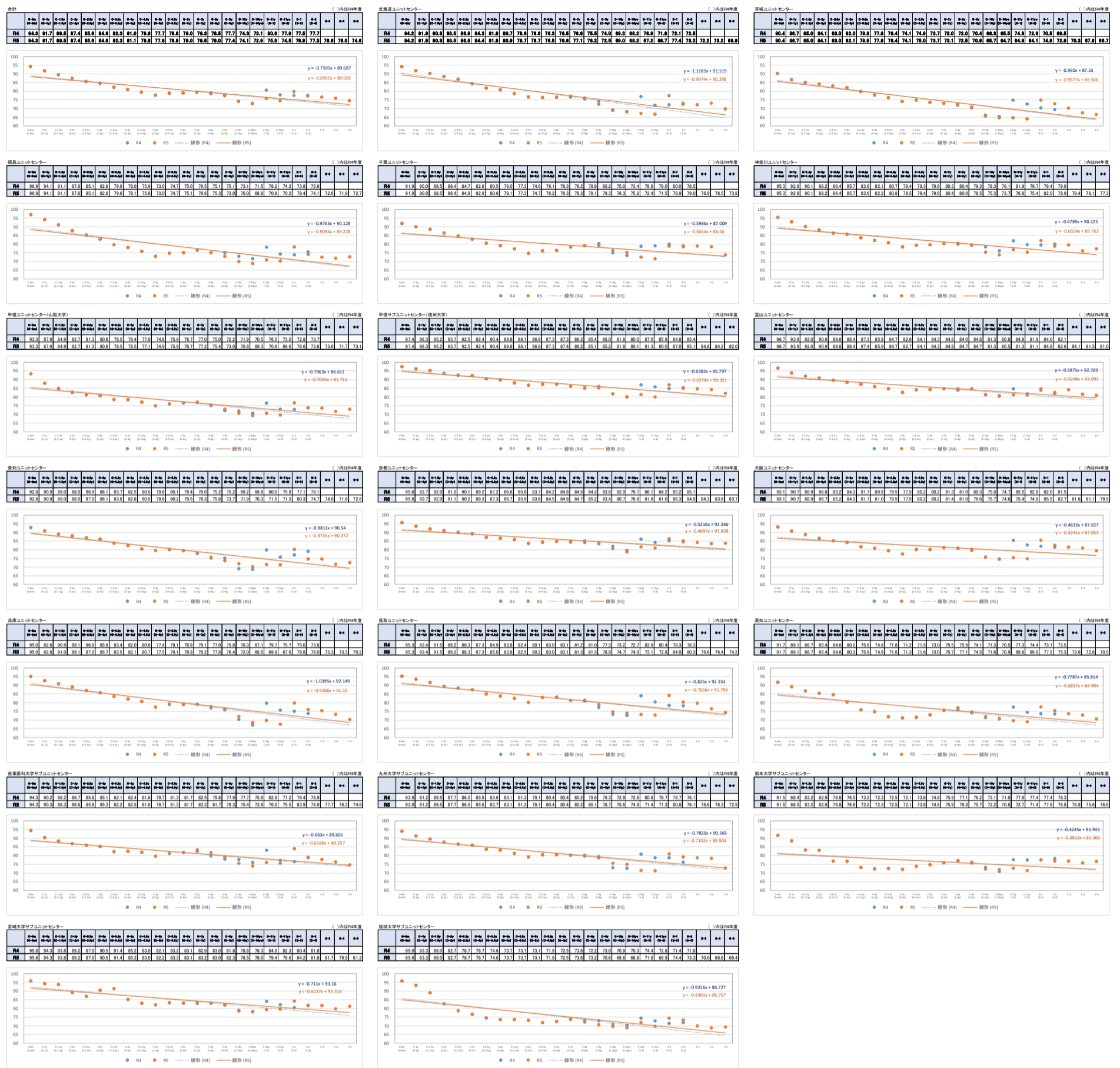


表 4-1 ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組

(参加者の調査参加へのモチベーション維持) や「質問票回収率の維持・向上」

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

| ユニットセンター サブユニットセンター | PDCAに沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|---|
| 北海道ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○参加者の生の声を「13 歳以降調査ニュース」ハガキによりスピーディーに発信し、正確な情報を工夫して伝えている。 ○参加の意欲がある人を取りこぼさない工夫を行っている。 ○オンラインイベントやオンライン市民講座の充実、質問票再送時期の工夫。 ○イベントに参加できなかった方へ自宅のできるトレーニング動画を配信するなど参加者に配慮されている。 |
| 宮城ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○幅広いテーマでのオンラインセミナーを実施している。 ○多方面にわたるきめ細かい対応がみられる。 ○13 歳以降調査の同意勧奨に圧着ハガキを利用し、郵送料を抑えたうえで多くの情報を伝える工夫をしている。 ○エコチル調査に関係するクロスワードやイベント前後のアンケートなど参加者との双方向コミュニケーションを工夫されていた。 |
| 福島ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい会での親子マイ弁当つくりなどのオンラインのイベントや、小6参加児向けのオリジナルエール集等、工夫がみられる。 ○13 歳以降調査継続への取り組み(オリジナルエール集など)、双方向コミュニケーションや学びの機会を継続的に提供。 ○質問票発送用封筒の迷路や紙巻鉛筆など対象児が興味を持つような工夫がよい。特に 12 歳質問票でのカスタマイズボールペンは、一方的なプレゼントではなく、対象児が自らエコチルに関わる機会としてもとても良い案だと思う。 ○小学6年生児童へ向け、ユニットセンターからこれからも調査を通じて見守っていることを伝える応援メッセージを込めたオリジナル・エール集「キミたちへ贈る言の葉」を作成し、学年質問票へ同封した取り組みが良かった。 ○プレゼントの同封や、ふれあい会、環境セミナーなど、様々な方法を駆使しており、参考になる。 |
| 千葉ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたち向けの論文解説やセミナーなど、子どもたち自身の動機付けに工夫を凝らしている。 ○継続されている「キッズマガジン」が年齢に応じたものにレベルアップされており、わかりやすさ・親しみやすさが評価できる。 ○夏休みイベント「eco えこ大作戦」は夏休みに各自でできる SDGs イベントで普段のイベントのように募集、実施当日の案内、参加者への返信など |

| ユニットセンター サブユニットセンター | PDCAに沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|--|
| | の業務が簡略でき、参加者プレゼントもアップサイクルのペンケースにするなど、イベント全体の調和もとれていると感じた。 |
| 神奈川ユニットセンター | - |
| 甲信ユニットセンター (山梨大学) | <p>○13歳以降の調査継続について、参加者が混乱しないよう段階的に情報・案内の発送を行い、イラストなどを多用してアプリによる意思表示の手順を案内するなど工夫されている。</p> <p>○目標が明確である。</p> |
| 甲信サブユニットセンター (信州大学) | <p>○質問票回収率の維持・向上の取り組みについては現状のアプローチ方法が適切と判断し新たな取組を行わず、13歳以降の継続に重点をおいて取り組んだという点は、スタッフの業務量や負担が増える中で、そういった判断も大切である。</p> <p>○10歳、11歳のお子さまを持つ保護者に対して13歳以降調査の案内を行うなど、モチベーションアップにつながるような事前の準備がとても素晴らしい。</p> |
| 富山ユニットセンター | <p>○12歳のエコチル調査参加者に対面イベントを通して直接働きかけることで、13歳以降調査継続の同意者を増やしている。</p> <p>○参加者自身のモチベーションアップを図るため広報誌の企画内容が良いと思った</p> |
| 愛知ユニットセンター | <p>○参加者へのインタビューやアンケートに基づきプランを立案し、実践している。</p> <p>○13歳以降調査継続の為、大判はがきによる先行通知、メッセージカードを使いアプリインストールを円滑にするための工夫、ハガキによる通知では個人情報の保護と開封率を高めるための工夫をしている。</p> <p>○13歳以降の調査の同意のハードルになっている問題をソフト面・ハード面双方から、参加者との対話を行いながら解決する取組は、多くのUCにとって参考となる。</p> |
| 京都ユニットセンター | <p>○「質問票返送依頼は温かくユーモラスに」「代わりの歯をプレゼント」など、参加者の立場に寄り添った対応がとてもよいと思う。</p> <p>○どすえかわら版のキッズ版が分かりやすく、子どもたちに親しまれると思われた。</p> |
| 大阪ユニットセンター | <p>○評価指標、計画が具体的で、参考になった。</p> <p>○HPから参加者が直接コミュニケーションできるのは興味深い取り組みである。</p> <p>○返送依頼について、無駄なく効果が得られそうなところへ細やかに実施されていて良いと思う。</p> |
| 兵庫ユニットセンター | ○他UCでのやり方等を確認しながら目標を立てている。 |

| ユニットセンター サブユニットセンター | PDCAに沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|--|
| 鳥取ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○13歳以降調査継続の案内ツールが、今後の流れや変更点など分かりやすくまとめている。 ○調査への主体的な参加意識向上を狙った参加者によるブログリレーを実施している。 |
| 高知ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○年齢に応じたプレゼントの工夫やニュースレターへの取材企画などの参加者コミュニケーションが評価できる。 ○参加者(子ども)の声として会報誌で周知され、効果範囲を広げる意味でよい工夫だと考える。 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○参加者がエコチルに思い入れできるような工夫がなされている。 ○市内の全小学校、中学校、特別支援学校、市立高校への周知と協力体制構築及び市内全科の医療機関との協力体制構築の取組をされていることはとても参考になった。 ○子どもアンケート一連の活動が謎解きを通じて13歳以降の応援から、最終的にホームページ閲覧へも誘導する形がすばらしい。 ○「おうえんキャラクターコンテスト」は子どもが参加を意識できて良いと思う。 |
| 九州大学サブユニットセンター | - |
| 熊本大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクター募集や、大学HP活用、質問票スタンプラリーカードの同封などで、実際に質問票回収率が向上している。 ○質問票への記入漏れを回避する工夫を行うことで問い合わせ件数も減少している。 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○提出勧奨と回収率の推移の検討をして、重量なデータとなっている。 ○幅広く取組を行っている。 ○子どもアンケートの回答に対する感謝状を発送し、子どものモチベーションをあげる取組を行っている。 ○定期ワクチン接種等の機会に協力医療機関から行うエコチル調査参加への感謝の声掛けといった参加者のモチベーションを高める取組。 |
| 琉球大学サブユニットセンター | - |

表 4-2 ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組（成果の社会還元）

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

| ユニットセンター サブユニットセンター | PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|---|
| 北海道ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○成果の社会還元にとどまらず、次世代研究者育成についても戦略的に実施している。 ○行政と連携し、広く市民に成果を発信している。 ○参加者・同世代の子どもを対象とし広く還元している。 ○「オンライン市民講座」など Web 媒体を利用した社会還元を行うことで、対象者を幅広く、かつアクセスしやすいアウトリーチが実施できている |
| 宮城ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○ポータルサイトや成果データベース、チャットなどを活用し、関係研究者間でのやり取りがしやすい環境を構築している。 ○X(Twitter)では 1,000 人以上、オープンキャンパスでは 600 人以上など、多くの人にエコチル成果を知ってもらえている。 ○オープンキャンパスのエコチルブースは、エコチルの成果を直接利用していく世代であり、重要な取り組みであると感じた。 ○広報・啓発に戦略的に力が入れられており、特にエコチル調査参加者以外にも広く知らせることに注力している。 |
| 福島ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○学術分野、県民への成果共有、学校保健・教育分野との連携強化など、様々な取り組みをしている。 ○ローカル・インフルエンサーや地域施設と協力することで県民認知度向上に役立っている。 ○参加者・県民へ調査継続・成果の周知機会として、サマースクールを実施したこと。 ○学術ワーキンググループを運営し、定例勉強会や研究相談など、学術論文発表促進にむけて研究者を支援する体制を整えている。 |
| 千葉ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○子ども向け論文紹介を行っている。 ○通信や動画などわかりやすく配信し、今の子どもたちにも役立つ情報を工夫して発信している。 ○他大学へも執筆協力を得ていることで、地域全体のエコチル調査への認知度が高まっていると考えられる。 ○学術集会での紹介や機関紙への投稿など、公表論文を広く周知するための取り組みが良い。 |
| 神奈川ユニットセンター | - |
| 甲信ユニットセンター (山梨大学) | <ul style="list-style-type: none"> ○エコチル参加者と直に関わる教育関係者への情報発信と対話が進んでいる。 |

| ユニットセンター サブユニットセンター | PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|--|
| | ○子供達とかかわりのある小学校教員を中心とした関係者にエコチルを周知し側面から支援してもらっている。 |
| 甲信サブユニットセンター (信州大学) | ○地元への還元が充実している。 ○ポスターが分かりやすく、地域に幅広く掲示を行っている。 |
| 富山ユニットセンター | ○HP や冊子での成果紹介がとても充実していてわかりやすい。積極的にプレスリリースを行なっているのもすごいと感じる。 ○新聞社やテレビなどのメディアに成果が取り上げられており、エコチル調査の認知度向上に寄与していると感じたため。 ○文量が少なめで読む気になり、かつ端的にまとめられているわかりやすい成果発表集を作成。 ○調査の参加意義を感じられる成果発表集を作成している。 ○「エコチル調査でわかったこと」小冊子を参加者だけでなく、医療機関、行政機関、教育機関にも配布したことで、より多くの人に成果を認知してもらえた。 |
| 愛知ユニットセンター | ○対面イベントでの参加率と参加者数の多さ。また参加者が多いなか研究成果概説や13歳以降調査継続に向けた依頼を実施できた点。 ○対面調査の機会にどのようなイベントに参加したいか実施したアンケートをもとにイベントを開催、イベント会場で研究成果の紹介やセンター長から直接感謝を伝えるなど、研究成果の還元だけではなく、参加者コミュニケーションという点からもイベントを上手に活用していると感じた。 ○研究成果の還元だけではなく、参加者コミュニケーションという点からもイベントを上手に活用している。 ○数値目標を設定した取組は評価できる。 |
| 京都ユニットセンター | - |
| 大阪ユニットセンター | ○定期的に研究著者への進捗確認を行い、クオリティコントロールに努め、論文化の促進が行われている。 ○論文の日本語概要版や子育てコラムに多くのアクセスがあり効果がみられる。 ○積極的な論文発表や、セミナー等を実施している。 |
| 兵庫ユニットセンター | ○調査参加のお子さんが思春期を迎えることを考慮した、市民公開講座を開いた。 ○市民講座、法人広報誌、ユニットセンターニューズレター、県主催のフォーラム、大学生への講義など多くの機会を通して研究成果発表を積極的に行っている。 |
| 鳥取ユニットセンター | - |

| ユニットセンター サブユニットセンター | PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|---|
| 高知ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○一般向け・参加者向け・研究者向けそれぞれの広報にバランスよく注力している。 ○地域メディアの利用や大学広報と連携した中高生へのアプローチ。 ○子育てコラムの連載を継続し成果を分かりやすく還元している。 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○医学部の学生実習で、エコチル調査と環境に関連する参加者向けの環境冊子や動画を作製している点、両者(学生／参加者)に同時に効率的に働きかけができています。 ○参加児の活動により、参加児以外のお子さんがエコチル調査に興味を持つきっかけづくりを模索している。 ○資料がわかりやすい。 |
| 九州大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○Web ページ上の成果紹介は非常に簡潔で平易であり、一般に利用しやすい媒体となっている。 |
| 熊本大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○研究登録者を増やしたり、定期的な研究会の開催など、追加調査や固定データを利用した論文の執筆に向けて前向きに取り組んでいる。 ○地元のラジオや住宅情報誌、地元新聞で研究成果を紹介するなど、様々な媒体を活用している。 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○HP は代表性の高いコミュニケーションツールであるため、HP をリニューアルすることで参加者及び一般利用者の利便性の向上に繋がっていると感じただため。 |
| 琉球大学サブユニットセンター | - |

表5-1 論文発表状況

(令和5年1月末～令和5年12月末)

| センター名 | 全国データを用いた論文 | | 左記 全論文のIF の合計値 | IFの 平均値 |
|---------------------|-------------|--------------------|----------------------|------------|
| | 論文数 | うち、中心 仮説に関する論文数 | | |
| 北海道ユニットセンター | 3 | 2 | 18.760 | 6.253 |
| 宮城ユニットセンター | 6 | - | 26.280 | 4.380 |
| 福島ユニットセンター | 13 | - | 51.598 | 3.969 |
| 千葉ユニットセンター | 4 | - | 49.486 | 12.372 |
| 神奈川ユニットセンター | 3 | - | 21.604 | 7.201 |
| 甲信ユニットセンター (山梨大学) | 11 | - | 45.326 | ※4.120 |
| 甲信サブユニットセンター (信州大学) | 3 | 1 | 15.200 | 5.067 |
| 富山ユニットセンター | 11 | - | 50.645 | 4.604 |
| 愛知ユニットセンター | 2 | - | 5.946 | 2.973 |
| 京都ユニットセンター | 2 | - | 6.669 | 3.335 |
| 大阪ユニットセンター | 8 | 2 | 46.090 | 5.761 |
| 兵庫ユニットセンター | 3 | 1 | 14.529 | 4.843 |
| 鳥取ユニットセンター | 3 | - | 22.548 | 7.516 |
| 高知ユニットセンター | 5 | - | 16.660 | 3.332 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 3 | 1 | 11.691 | 3.897 |
| 九州大学サブユニットセンター | 3 | 2 | 31.054 | ※10.351 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 1 | 1 | 6.706 | 6.706 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | - | - | - | - |
| 琉球大学サブユニットセンター | - | - | - | - |

※IF (インパクトファクター) が不明な論文を除く。

表 5-2 エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章

(令和4年9月～令和5年9月末)

| | 表彰年月 | 賞等の名称 | 表彰機関等の名称 | 対象となった研究成果や活動 |
|------------|---------|----------------------------------|----------|---|
| 千葉ユニットセンター | 令和4年10月 | 第96回日本内分泌学会学術総会「愛・内分泌」賞(優秀演題賞) | 日本内分泌学会 | 受賞演題:「妊娠の血中ビタミンD代謝物・代謝物比と児の出生時体格との関連について」 |
| 富山ユニットセンター | 令和5年3月 | 第93回日本衛生学会学術総会・若手優秀発表賞(ポスター賞) | 日本衛生学会 | 受賞課題:「妊娠中の発酵食品の摂取量と3歳時点における睡眠時間との関連」 |
| 愛知ユニットセンター | 令和5年3月 | 第93回日本衛生学会学術総会・若手優秀発表賞(最優秀ポスター賞) | 日本衛生学会 | 受賞課題:「日本人小児におけるフタル酸エステル類の累積曝露評価—エコチル調査愛知追加調査より」 |
| 高知ユニットセンター | 令和5年3月 | 第93回日本衛生学会学術総会・若手優秀発表賞(優秀ポスター賞) | 日本衛生学会 | 受賞課題:「Dose-response relationships between maternal urinary cotinine and placental weight and ratio of placental weight to birth weight」 |

表 5-3 論文発表について特に優れたユニットセンター及び選定理由

| ユニットセンター サブユニットセンター | 論文発表の「特に優れた取組」の選定理由(抜粋) |
|------------------------|---|
| 北海道ユニットセンター | - |
| 宮城ユニットセンター | ○環境因子が小児血圧に与える影響。 ○論文数とインパクトファクターの平均値の高さ。 |
| 福島ユニットセンター | ○全体の論文数の多さと質が豊富。 ○福島UCの先天異常発症の頻度を他UCと比較し、福島UCの参加者に寄り添ったエビデンスを提示している点も素晴らしいと感じた。 ○社会的に関心が高いテーマについても成果を発表できた点で意義深い。 ○「胎児期・乳児期のペットへのばく露と食物アレルギーの関係」、ユニークで面白い。 |

| ユニットセンター サブユニットセンター | 論文発表の「特に優れた取組」の選定理由（抜粋） |
|------------------------|--|
| 千葉ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○メディア視聴時間と発達への影響が明らかとなり、育児支援につながる研究結果である。 ○論文発表数が比較的多く、内容も充実している。中心仮説に関する論文も発表されている。 |
| 神奈川ユニットセンター | - |
| 甲信ユニットセンター (山梨大学) | <ul style="list-style-type: none"> ○児のアレルギー疾患に関する幅広い研究成果。 ○多胎の出生や複数参加のデータを活用した優れたエビデンスを提示している点や、インフルエンザ予防接種と感染について評価するなど予防医学にも貢献する結果を提示している。 |
| 甲信サブユニットセンター (信州大学) | ○現在の社会的な関心事である PFAS の影響をいち早く取り扱っているため。 |
| 富山ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○研究発表数が多く、いずれもインパクトが高いため。 ○さまざまな分野の専門家によるアイデアが反映された多様性に富む論文が多くある。 ○出生季節とアレルギーの関連などの興味深い課題含め、非常に多くの成果を発表している。 |
| 愛知ユニットセンター | - |
| 京都ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○中心仮説論文並びに中心仮説以外の論文が多数ある。 ○High impact journal に掲載された論文があるため。 |
| 大阪ユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○小児科領域にとって重要な知見を含む論文が複数あるため。 ○複数の中心仮説課題を含む多数の成果発表がなされている。 ○父親（若年男性）をテーマとした研究が複数あることも特徴的と言える。 |
| 兵庫ユニットセンター | - |
| 鳥取ユニットセンター | - |
| 高知ユニットセンター | - |
| 産業医科大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○中心仮説の論文を発表していること。 ○ここで論じられている妊婦の職業性原油曝露についての結果は、今後の労働衛生に影響を与えると考えられるため。 |
| 九州大学サブユニットセンター | <ul style="list-style-type: none"> ○インパクトの高い中心仮説論文が複数あるため。 ○妊娠中の職業的な曝露を取り扱っており、エコチル調査として社会に還元できるエビデンスを複数発表している。 |
| 熊本大学サブユニットセンター | - |
| 宮崎大学サブユニットセンター | ○中心仮説論文が 2 件あり、高 IF ジャーナルへの掲載もある。 |
| 琉球大学サブユニットセンター | - |

表6 個人情報の管理状況（令和4年10月～令和5年9月末）

○：適切な対応を実施している、△：一部改善を要する、×：改善を要する

| | 確認項目 | | | | | | | | | 特記事項 |
|--------------------|-----------------|-------------|-----------|-------------|---------------------|------------|------------------|----------------|--------------|--|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |
| | 安全管理手続きに係る文書の作成 | 個人情報の所在等の特定 | 管理簿の作成、更新 | 定期的な利用状況の把握 | 情報の外部流出を最小限とするための措置 | 自己点検リストの作成 | 個人情報に関する基本ルールの周知 | パソコンにおけるウイルス対策 | 違反に関する指摘事例件数 | |
| 北海道ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 月に1回 UC 内全体で情報リテラシーに関する研修会を実施し、また週1回 UC 事務局会議で情報管理状況を報告している。 |
| 宮城ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 個人情報を含むデータは、個人情報移動管理簿を記入してから移動させ、さらにメールでも差出と受領の確認を行っている。受取時には書類名、件数、受取時刻を記録する。 |
| 福島ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | UC 独自の個人情報管理マニュアルを作成している。 新たに個人情報を含む資料を作成・保存する場合、その都度申請し責任者の確認を得る仕組みがある。 |
| 千葉ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 年に一回、医療情報管理を専門とする教員（情報管理責任者）が現場を視察し、管理状況に対する指導・確認を行っている。 |
| 神奈川ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 業務端末のアクセス状況のモニタリングを定期的に行っている。 |
| 甲信ユニットセンター（山梨大学） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | UC 独自のルール表を作成し、執務室内に掲示している。 業務専用の携帯電話と iPad について独自に利用管理規定を作成し、使用するスタッフに周知徹底を図っている。 |
| 甲信サブユニットセンター（信州大学） | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | マニュアルに沿った日常管理と点検リストによる定期的な啓蒙により個人情報取り扱いに関する意識の維持向上を図っている。 |
| 富山ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | UC 独自の点検表を作成し、データ解析者の使用 PC・外付け HDD/SSD を把握して解析 PC にデータが残っていないか確認している。 |
| 愛知ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 近年の SNS の普及による様々な肖像権に関わるトラブルの発生状況を鑑み、学童期検査において広報活動のための写真撮影をする際に、口頭同意のみならず、書面同意によって承諾を得るように徹底している。対面調査会場にも専用の鍵付き保管庫を設置している。 |
| 京都ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 | 個人情報の漏洩につながるメールの誤送信が1件あった。コアセンターに報告するなどの対応が速やかに行われたものの、環境省への報告に遅延があった。その後、メール等の送信前にアドレス等のダブルチェックをするなど再発防止が進められている。 |
| 大阪ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | データ・資料の管理簿は、毎日担当者がチェックし、日常点検欄にサインをしている。 |
| 兵庫ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | UC 独自の個人情報管理マニュアルを作成している。離籍時には紙面を伏せたり、端末画面の作業ウインドウも最小化するなど、個人情報漏洩の防止に注意を払っている。 |
| 鳥取ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 機密度ごとに該当する情報を具体的に示した機密度ランク表を執務室内の複数個所に掲示し、常時確認できるようにしている。 |
| 高知ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 独自に作成している自己点検リストのチェック項目に、基本ルールを定期的に再確認することが入っている。 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 携帯電話の参加者の電話番号は通話後削除している。情報管理責任者が毎日、削除されていることを確認、記録している。 |
| 九州大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | SUC 独自のチェックリストに沿って、情報管理責任者が月1回個人情報の管理状況をチェックしている。調査や検査のイベント毎に個人情報の所在を確認し、実施漏れの有無を確認している。 |
| 熊本大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | どの部門においても個人情報を取り扱う際には2名体制によるダブルチェックを実施している。 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | SUC 独自の固定データ取扱確認表を作成し、固定データを扱う研究者に対し提出を義務付けている。 |
| 琉球大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 0 | 毎月初頭に「個人情報保護チェックシート」を全員が記載して、自己点検している。 |

※令和5年度自己点検シート（個人情報管理状況等）への回答、及びそれに基づく現地ヒアリング（Web ヒアリング）による。

※「違反事例件数」は令和4年10月から令和5年9月末まで。

表7 成果発表ルール等の遵守状況（令和5年1月～令和5年12月末）

| | 成果発表ルール等 ※1の遵守状況 | | 成果発表届出・報告システム(ActionPassport)による成果発表届出・報告 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 追加調査 に関する 承認件数 ※2 | |
|--------------------|---------------------|---|---|------|-------------|--------------------|------------|-----|---------------|--------------------|------|-----------------------|------|----------------|------|------------------------|-------|---|--------------------------------------|--------------------|----------------------------|----|
| | | | 様式 10-1 誌上发表(原著) | | | | | | 様式 12 学会発表 | | | 様式 15 一般広報/発表媒体の種類 | | | | 様式 16 | 様式 17 | 様式 18 | 様式 19 | 様式 13 | | 合計 |
| | | | 件数 | 合計件数 | 初回論文 投稿時 | 投稿前審 査時から 変更 | アクセプト 時 | 掲載時 | その他 | 原著を引 用した総 説等 | 1_口頭 | 2_ポスター | 3_集会 | 1_広報誌 等(紙面) | 2_HP | 3_イベン ト・講演等 (対面) | 4_その他 | 一般広報 (制約のない 地域の 協力機関 への情報 提供の場 合) | 報道機関 への情報 発信(自ら 依頼する 場合) | 論文掲載 時の報道 発表 | | |
| コアセンター | 0 | 0 | 7 | 0 | 6 | 6 | 0 | 3 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 33 | 0 |
| メディカルサポートセンター | 0 | 0 | 4 | 0 | 8 | 8 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 | 0 |
| 北海道ユニットセンター | 0 | 0 | 5 | 0 | 4 | 3 | 0 | 1 | 4 | 6 | 0 | 2 | 3 | 1 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 34 | 2 |
| 宮城ユニットセンター | 0 | 0 | 10 | 0 | 8 | 9 | 0 | 0 | 4 | 1 | 0 | 3 | 1 | 8 | 2 | 0 | 0 | 3 | 4 | 1 | 54 | 1 |
| 福島ユニットセンター | 0 | 0 | 10 | 0 | 14 | 13 | 1 | 7 | 3 | 0 | 0 | 4 | 2 | 6 | 1 | 30 | 1 | 0 | 12 | 0 | 104 | 0 |
| 千葉ユニットセンター | 0 | 0 | 5 | 0 | 4 | 4 | 0 | 1 | 6 | 3 | 0 | 3 | 2 | 6 | 2 | 2 | 0 | 1 | 14 | 0 | 53 | 4 |
| 神奈川ユニットセンター | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 19 | 0 |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 0 | 0 | 11 | 0 | 12 | 15 | 0 | 1 | 9 | 2 | 2 | 3 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 13 | 2 | 84 | 2 |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 0 | 0 | 5 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 16 | 0 |
| 富山ユニットセンター | 0 | 0 | 5 | 0 | 14 | 11 | 1 | 3 | 14 | 13 | 0 | 6 | 28 | 17 | 4 | 1 | 0 | 13 | 28 | 4 | 162 | 9 |
| 愛知ユニットセンター | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 10 | 9 | 0 | 4 | 0 | 4 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 11 | 52 | 1 |
| 京都ユニットセンター | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 3 | 1 | 4 | 3 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 21 | 3 |
| 大阪ユニットセンター | 0 | 0 | 5 | 0 | 7 | 8 | 0 | 0 | 3 | 3 | 0 | 3 | 5 | 4 | 3 | 2 | 0 | 1 | 1 | 6 | 51 | 6 |
| 兵庫ユニットセンター | 0 | 0 | 3 | 0 | 4 | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 6 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 28 | 3 |
| 鳥取ユニットセンター | 0 | 0 | 4 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 21 | 0 |
| 高知ユニットセンター | 0 | 0 | 5 | 0 | 4 | 5 | 0 | 0 | 6 | 5 | 0 | 0 | 3 | 5 | 3 | 3 | 24 | 0 | 3 | 0 | 66 | 3 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 0 | 0 | 4 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 16 | 2 |
| 九州大学サブユニットセンター | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 16 | 0 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 14 | 1 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 琉球大学サブユニットセンター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 計 | 0 | 0 | 94 | 0 | 106 | 107 | 2 | 16 | 75 | 47 | 2 | 48 | 59 | 68 | 23 | 53 | 28 | 35 | 83 | 25 | 871 | 37 |

注 ※1 成果発表ルール等とは以下を指す。
 運営委員会決定 令和4年9月6日改正「エコチル調査で収集されたデータの利用と成果発表に関する基本ルール」
 運営委員会決定 令和5年3月1日改正「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」
 ※2 追加調査に関する承認件数は、研究計画変更にかかる承認を含む。

表8 人材育成実績

エコチル調査に関わった大学院生、特任研究員、教員等の主な就職先（転職先）及び現在の役職（令和5年9月末までの実績）

| | 主な就職先(転職先)及び現在の役職 ※就任先の現在の役職で集計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---------------------------------|-----|----|-------|-----|------------|----------|-----------------|-----------|--------------------|-----------|-------------------|---------------|--------|--------|------|-----|-----------|-----|
| | 大学(特任含む) | | | | | | | コアセンター(CC) | | メディカルサポートセンター(MSC) | | 国の研究機関(CC/MSCのぞく) | 医療機関 | | | 民間 | | その他(自治体他) | 計 |
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教・助手 | 研究員 | 大学教員(役職不明) | その他(留学等) | 研究員等(役職不明またはなし) | 昇進につき役職あり | 研究員等(役職不明またはなし) | 昇進につき役職あり | | 医師等(役職なし又は不明) | 医長・部長等 | 院長等組織長 | 研究機関 | その他 | | |
| 計 | 27 | 36 | 41 | 80 | 14 | 6 | 10 | 3 | 7 | 4 | 3 | 5 | 16 | 15 | 5 | 3 | 5 | 8 | 288 |
| 北海道ユニットセンター | 1 | 6 | 7 | 7 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 33 |
| 宮城ユニットセンター | 8 | 5 | 7 | 6 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 37 |
| 福島ユニットセンター | 0 | 3 | 2 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| 千葉ユニットセンター | 1 | 3 | 2 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| 神奈川ユニットセンター | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 2 | 1 | 1 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 富山ユニットセンター | 2 | 0 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 13 |
| 愛知ユニットセンター | 2 | 2 | 2 | 5 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 19 |
| 京都ユニットセンター | 0 | 1 | 2 | 4 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 13 |
| 大阪ユニットセンター | 1 | 4 | 1 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 22 |
| 兵庫ユニットセンター | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 11 |
| 鳥取ユニットセンター | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 高知ユニットセンター | 1 | 3 | 1 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 13 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 2 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 九州大学サブユニットセンター | 1 | 2 | 1 | 6 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 15 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 0 | 1 | 1 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 琉球大学サブユニットセンター | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |
| メディカルサポートセンター | 1 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| コアセンター | 0 | 2 | 3 | 5 | 1 | 1 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 23 |

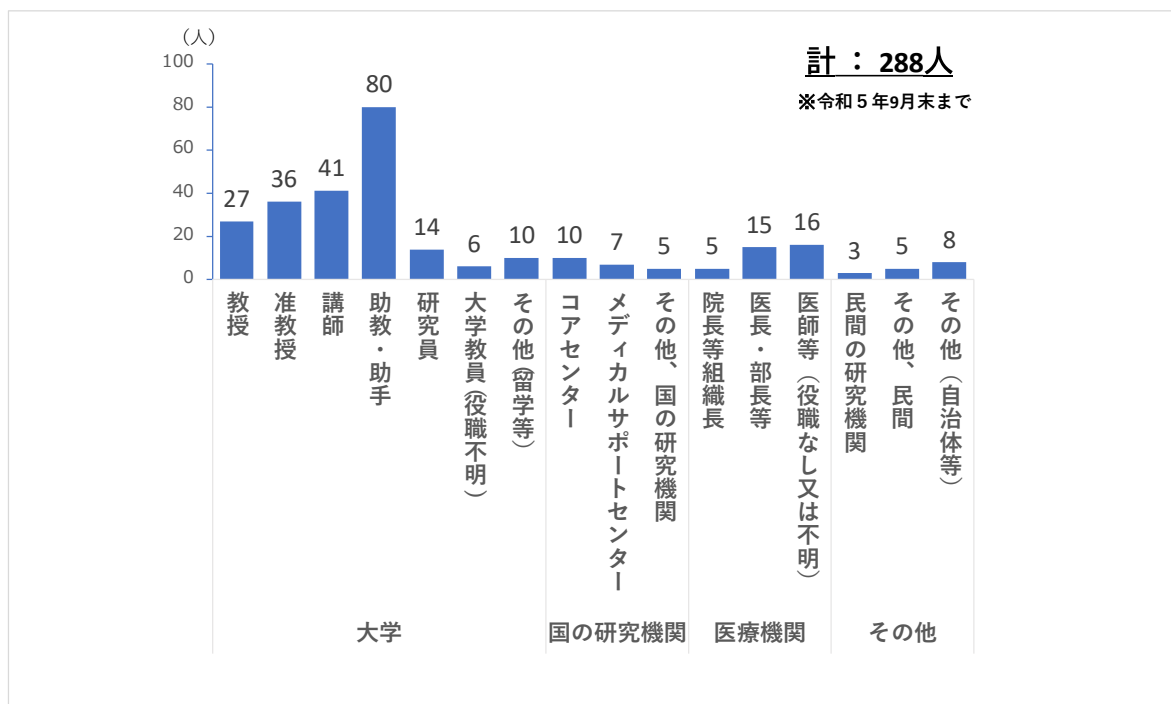


図3 人材育成の実績（累積人数、令和5年9月末現在）

表9 大学院生等の育成実績

(1) 累積人数（令和5年9月まで）

| | 修士課程の学生 | | 博士課程の学生 | | 特任研究員、その他 | | 計 | |
|--------------------|---------|-------|---------|-------|-----------|-------|-----|-------|
| | 人数 | うち留学生 | 人数 | うち留学生 | 人数 | うち留学生 | 人数 | うち留学生 |
| 計 | 44 | (2) | 195 | (15) | 104 | 4 | 343 | (21) |
| 北海道ユニットセンター | 1 | (0) | 5 | (0) | 15 | (0) | 21 | (0) |
| 宮城ユニットセンター | 16 | (0) | 22 | (0) | 1 | (0) | 39 | (0) |
| 福島ユニットセンター | 1 | (0) | 18 | (0) | 22 | (0) | 41 | (0) |
| 千葉ユニットセンター | 2 | (0) | 13 | (2) | 7 | (0) | 22 | (2) |
| 神奈川ユニットセンター | 2 | (0) | 9 | (0) | 1 | (0) | 12 | (0) |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 2 | (0) | 9 | (2) | 2 | (0) | 13 | (2) |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 0 | (0) | 7 | (0) | 0 | (0) | 7 | (0) |
| 富山ユニットセンター | 2 | (0) | 6 | (0) | 13 | (0) | 21 | (0) |
| 愛知ユニットセンター | 6 | (1) | 5 | (1) | 10 | (0) | 21 | (2) |
| 京都ユニットセンター | 3 | (0) | 2 | (0) | 4 | (0) | 9 | (0) |
| 大阪ユニットセンター | 0 | (0) | 17 | (2) | 17 | (4) | 34 | (6) |
| 兵庫ユニットセンター | 0 | (0) | 8 | (0) | 5 | (0) | 13 | (0) |
| 鳥取ユニットセンター | 0 | (0) | 5 | (0) | 0 | (0) | 5 | (0) |
| 高知ユニットセンター | 5 | (1) | 16 | (3) | 2 | (0) | 23 | (4) |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 2 | (0) | 5 | (0) | 0 | (0) | 7 | (0) |
| 九州大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 28 | (0) | 0 | (0) | 28 | (0) |
| 熊本大学サブユニットセンター | 2 | (0) | 1 | (0) | 0 | (0) | 3 | (0) |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 8 | (5) | 4 | (0) | 12 | (5) |
| 琉球大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 3 | (0) | 1 | (0) | 4 | (0) |
| メディカルサポートセンター | 0 | (0) | 0 | (0) | (0) | (0) | 0 | (0) |
| コアセンター | 0 | (0) | 8 | (0) | (0) | (0) | 8 | (0) |

*留学生の国名：インドネシア6名、中国5名、バングラディシュ3名、ミャンマー3名、アメリカ2名、ベトナム1名、エジプト1名

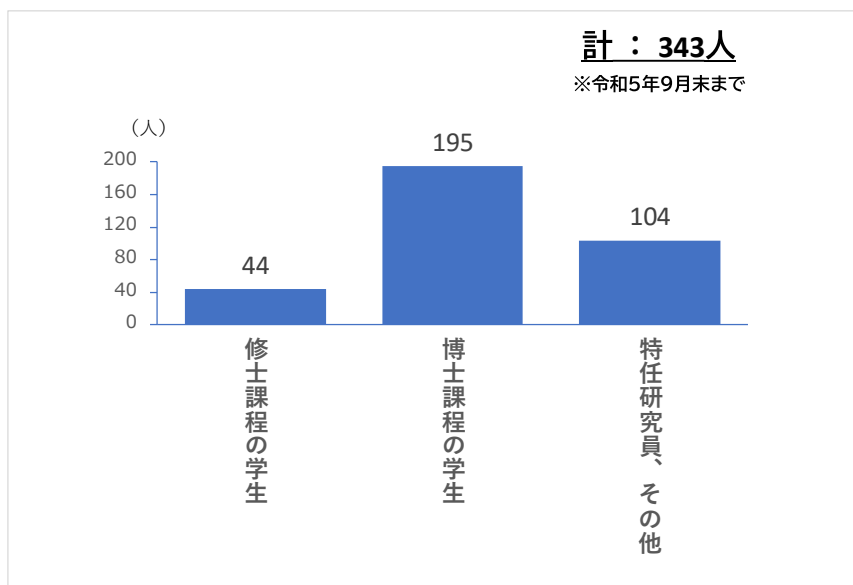


図4 大学院生等の育成実績（累積人数、令和5年9月末現在）

(2) 本年度における在籍人数（令和5年9月末）

| | 修士課程の学生 | | 博士課程の学生 | | 特任研究員、その他 | | 計 | |
|--------------------|---------|-------|---------|-------|-----------|-------|-----|-------|
| | 人数 | うち留学生 | 人数 | うち留学生 | 人数 | うち留学生 | 人数 | うち留学生 |
| 計 | 8 | (1) | 114 | (8) | 37 | (0) | 159 | (9) |
| 北海道ユニットセンター | 0 | (0) | 5 | (0) | 0 | (0) | 5 | (0) |
| 宮城ユニットセンター | 0 | (0) | 15 | (0) | 0 | (0) | 15 | (0) |
| 福島ユニットセンター | 0 | (0) | 11 | (0) | 16 | (0) | 27 | (0) |
| 千葉ユニットセンター | 0 | (0) | 11 | (1) | 2 | (0) | 13 | (1) |
| 神奈川ユニットセンター | 1 | (0) | 4 | (0) | 1 | (0) | 6 | (0) |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 1 | (0) | 8 | (1) | 2 | (0) | 11 | (1) |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 0 | (0) | 6 | (0) | 0 | (0) | 6 | (0) |
| 富山ユニットセンター | 0 | (0) | 6 | (0) | 2 | (0) | 8 | (0) |
| 愛知ユニットセンター | 3 | (1) | 3 | (1) | 2 | (0) | 8 | (2) |
| 京都ユニットセンター | 1 | (0) | 1 | (0) | 0 | (0) | 2 | (0) |
| 大阪ユニットセンター | 0 | (0) | 5 | (1) | 10 | (0) | 15 | (1) |
| 兵庫ユニットセンター | 0 | (0) | 6 | (0) | 0 | (0) | 6 | (0) |
| 鳥取ユニットセンター | 0 | (0) | 3 | (0) | 0 | (0) | 3 | (0) |
| 高知ユニットセンター | 1 | (0) | 4 | (1) | 1 | (0) | 6 | (1) |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 1 | (0) | 1 | (0) | 0 | (0) | 2 | (0) |
| 九州大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 14 | (0) | 0 | (0) | 14 | (0) |
| 熊本大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 1 | (0) | 0 | (0) | 1 | (0) |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 4 | (3) | 0 | (0) | 4 | (3) |
| 琉球大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 0 | (0) | 1 | (0) | 1 | (0) |
| メディカルサポートセンター | 0 | (0) | 0 | (0) | (0) | (0) | 0 | (0) |
| コアセンター | 0 | (0) | 6 | (0) | (0) | (0) | 6 | (0) |

※留学生(9名)の国名:中国3名、バングラディッシュ3名、インドネシア2名、ミャンマー1名

参考①－１ 実施体制（全体）

| ユニットセンター/ サブユニットセンター | 総数 | 委託費での雇用によるエコチル業務従事者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 委託費での雇用ではない エコチル業務従事者 | | | |
|-------------------------|----|---------------------|----|------------|----|-----------------|----|-----------------|----|-----------------------|----|------------|----|------------|----|------------|----|------------|----|--------------------------|----|------------|----|
| | | 教員 | | 研究員 | | リサーチコーディネーター | | | | | | | | | | 事務職員 | | その他 | | 教員・医師 | | 事務職員等 | |
| | | | | | | 看護師・保健 師・助産師 | | 公認心理士・ 臨床心理士 | | その他 有資格者 (国家資格) | | 無資格者 | | 合計 | | | | | | | | | |
| | | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 | 従事時 間合計 | 人数 |
| 北海道ユニットセンター | 38 | 175 | 5 | 0 | 0 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 164 | 7 | 169 | 8 | 411 | 13 | 0 | 0 | 90 | 11 | 5 | 1 |
| 宮城ユニットセンター | 37 | 40 | 3 | 0 | 0 | 34 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 598 | 24 | 632 | 26 | 69 | 2 | 0 | 0 | 10 | 2 | 99 | 4 |
| 福島ユニットセンター | 49 | 163 | 5 | 0 | 0 | 194 | 5 | 39 | 1 | 0 | 0 | 535 | 14 | 767 | 20 | 775 | 20 | 0 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 |
| 千葉ユニットセンター | 32 | 31 | 1 | 62 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 344 | 11 | 344 | 11 | 312 | 8 | 0 | 0 | 75 | 10 | 0 | 0 |
| 神奈川ユニットセンター | 14 | 35 | 1 | 0 | 0 | 20 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 51 | 6 | 71 | 8 | 84 | 3 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 甲信ユニットセンター (山梨大学) | 21 | 160 | 5 | 0 | 0 | 161 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 161 | 8 | 213 | 6 | 0 | 0 | 8 | 1 | 2 | 1 |
| 甲信サブユニットセンター (信州大学) | 25 | 64 | 2 | 0 | 0 | 92 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 1 | 132 | 4 | 179 | 8 | 0 | 0 | 57 | 11 | 0 | 0 |
| 富山ユニットセンター | 29 | 19 | 1 | 155 | 4 | 165 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 2 | 225 | 13 | 247 | 8 | 0 | 0 | 55 | 3 | 0 | 0 |
| 愛知ユニットセンター | 26 | 75 | 2 | 10 | 1 | 85 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 46 | 4 | 130 | 8 | 279 | 8 | 0 | 0 | 27 | 6 | 12 | 1 |
| 京都ユニットセンター | 33 | 78 | 3 | 0 | 0 | 423 | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 423 | 19 | 104 | 4 | 0 | 0 | 55 | 7 | 0 | 0 |
| 大阪ユニットセンター | 45 | 138 | 4 | 78 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 1 | 18 | 1 | 274 | 10 | 136 | 10 | 13 | 4 | 0 | 0 |
| 兵庫ユニットセンター | 47 | 123 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 560 | 33 | 14 | 2 | 20 | 9 | 0 | 0 |
| 鳥取ユニットセンター | 17 | 39 | 1 | 0 | 0 | 78 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 78 | 2 | 395 | 12 | 0 | 0 | 20 | 2 | 0 | 0 |
| 高知ユニットセンター | 52 | 101 | 4 | 99 | 4 | 43 | 2 | 0 | 0 | 57 | 2 | 350 | 12 | 450 | 16 | 99 | 3 | 0 | 0 | 659 | 17 | 310 | 8 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 19 | 80 | 2 | 0 | 0 | 84 | 4 | 0 | 0 | 83 | 3 | 89 | 4 | 256 | 11 | 135 | 4 | 0 | 0 | 14 | 2 | 0 | 0 |
| 九州大学サブユニットセンター | 27 | 94 | 3 | 0 | 0 | 90 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 360 | 13 | 450 | 16 | 165 | 6 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 23 | 39 | 1 | 75 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 39 | 1 | 39 | 1 | 173 | 8 | 0 | 0 | 25 | 9 | 40 | 2 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 11 | 39 | 1 | 0 | 0 | 39 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 28 | 1 | 67 | 2 | 174 | 6 | 0 | 0 | 12 | 2 | 0 | 0 |
| 琉球大学サブユニットセンター | 14 | 35 | 1 | 0 | 0 | 18 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 2 | 78 | 3 | 138 | 4 | 0 | 0 | 25 | 5 | 39 | 1 |

※裁量労働制の対象者やその者の時間を計上している場合がある。

※従事時間合計は週当たり

参考①-2 実施体制（学童期検査）

※「○」該当あり、「-」なし

| | 学童期検査に係る人員 | | | | UC 外の 人員(医 師、看護 婦等) | 会場数 | 追加 調査※ | 外部 委託※ |
|--------------------|------------|------------------|-----|-----|------------------------------|-----|-----------|-----------|
| | 医師・ 教員 | リサーチ コーディネーター | 事務員 | その他 | | | | |
| 北海道ユニットセンター | 9 | 5 | 11 | 10 | 17 | 5 | ○ | - |
| 宮城ユニットセンター | 0 | 25 | 0 | 1 | 0 | 7 | ○ | - |
| 福島ユニットセンター | 9 | 20 | 20 | 0 | 44 | 10 | - | ○ |
| 千葉ユニットセンター | 10 | 14 | 0 | 0 | 9 | 8 | ○ | ○ |
| 神奈川ユニットセンター | 0 | 8 | 0 | 0 | 5 | 7 | - | - |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 5 | 8 | 6 | 0 | 17 | 1 | ○ | ○ |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 0 | 3 | 2 | 1 | 5 | 1 | - | ○ |
| 富山ユニットセンター | 3 | 10 | 8 | 1 | 14 | 5 | ○ | - |
| 愛知ユニットセンター | 6 | 8 | 3 | 3 | 4 | 3 | ○ | ○ |
| 京都ユニットセンター | 2 | 17 | 0 | 4 | 2 | 6 | ○ | - |
| 大阪ユニットセンター | 22 | 0 | 4 | 2 | 4 | 5 | ○ | ○ |
| 兵庫ユニットセンター | 4 | 0 | 7 | 18 | 1 | 8 | ○ | ○ |
| 鳥取ユニットセンター | 1 | 2 | 2 | 0 | 4 | 1 | - | - |
| 高知ユニットセンター | 3 | 8 | 0 | 1 | 9 | 3 | ○ | ○ |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 2 | 12 | 4 | 0 | 1 | 1 | - | - |
| 九州大学サブユニットセンター | 2 | 16 | 0 | 0 | 1 | 1 | - | - |
| 熊本大学サブユニットセンター | 1 | 1 | 6 | 6 | 0 | 7 | ○ | ○ |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 1 | 0 | 5 | 2 | 2 | 1 | - | ○ |
| 琉球大学サブユニットセンター | 2 | 3 | 3 | 1 | 3 | 2 | - | ○ |

参考①-3 実施体制（詳細調査）

| | 詳細調査に係る人員(精神発達検査者除く) | | | | | うち精神 発達検査 者*** |
|--------------------|----------------------|------------------|-----|-----|----------------------|----------------------|
| | 医師・ 教員 | リサーチ コーディネーター | 事務員 | その他 | 医師・看 護師の外 部委託※ | |
| 北海道ユニットセンター | 20 | 10 | 8 | 27 | ○ | 9 |
| 宮城ユニットセンター | 0 | 23 | 0 | 1 | - | 4 |
| 福島ユニットセンター | 9 | 20 | 19 | 11 | ○ | 13 |
| 千葉ユニットセンター | 11 | 14 | 0 | 5 | ○ | 6 |
| 神奈川ユニットセンター | 0 | 1 | 0 | 10 | ○ | 7 |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 3 | 7 | 6 | 4 | - | 5 |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 1 | 2 | 2 | 3 | ○ | 3 |
| 富山ユニットセンター | 4 | 12 | 5 | 9 | ○ | 5 |
| 愛知ユニットセンター | 5 | 7 | 4 | 7 | ○ | 5 |
| 京都ユニットセンター | 2 | 11 | 0 | 6 | ○ | 4 |
| 大阪ユニットセンター | 2 | 1 | 1 | 14 | ○ | 5 |
| 兵庫ユニットセンター | 4 | 0 | 8 | 9 | - | 3 |
| 鳥取ユニットセンター | 1 | 2 | 0 | 2 | - | 2 |
| 高知ユニットセンター | 3 | 4 | 0 | 2 | ○ | 6 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 3 | 8 | 4 | 6 | - | 2 |
| 九州大学サブユニットセンター | 2 | 6 | 0 | 2 | - | 3 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 2 | 1 | 6 | 7 | ○ | 2 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 2 | 0 | 2 | 6 | ○ | 3 |
| 琉球大学サブユニットセンター | 2 | 3 | 3 | 4 | ○ | 2 |

※「○」該当あり、「-」なし

***検査補助者は除く

参考② 詳細調査の参加者数【令和5年9月23日時点】

| | 詳細調査の同意者 | 詳細調査協力取り止め等 | | | 詳細調査現参加者数 | 【参考】 全体調査の協力取り止め等 | C-1.5y | | | | | C-2y | | | C-3y | | | | C-4y | | | C-6y | | C-8y | | C-10y | |
|------------------------|----------|-------------|-----|-------|-----------|----------------------|--------|--------|-------|--------|-----------|-------|-------|----------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|----------|-------|-------|----------|-------|----------|--|
| | | 協力取りやめ等 | | | | | 全体 | 環境測定記録 | 住環境調査 | 生活行動記録 | 長期的ハウスダスト | 全体 | 医学的検査 | 精神神経発達検査 | 全体 | 環境測定記録 | 住環境調査 | 生活行動記録 | 全体 | 医学的検査 | 精神神経発達検査 | 医学的検査 | 医学的検査 | 精神神経発達検査 | 医学的検査 | 精神神経発達検査 | |
| | | 試料廃棄 | (%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北海道ユニットセンター | 405 | 14 | - | 3.5% | 391 | 4 | 403 | 403 | 403 | 403 | 403 | 395 | 394 | 395 | 381 | 381 | 381 | 381 | 369 | 350 | 357 | 270 | 314 | 315 | 57 | 15 | |
| 宮城ユニットセンター | 447 | 21 | - | 4.7% | 426 | 9 | 446 | 446 | 445 | 446 | 447 | 433 | 429 | 432 | 410 | 410 | 410 | 410 | 388 | 377 | 383 | 313 | 329 | 328 | 19 | - | |
| 福島ユニットセンター | 638 | 34 | - | 5.3% | 604 | 19 | 638 | 638 | 638 | 638 | 635 | 620 | 615 | 618 | 579 | 579 | 579 | 579 | 571 | 541 | 561 | 401 | 467 | 454 | 114 | 107 | |
| 千葉ユニットセンター | 303 | 19 | - | 6.3% | 284 | 8 | 301 | 301 | 301 | 301 | 297 | 298 | 295 | 297 | 285 | 285 | 285 | 285 | 276 | 266 | 272 | 221 | 225 | 225 | 133 | 58 | |
| 神奈川ユニットセンター | 326 | 30 | - | 9.2% | 296 | 10 | 328 | 328 | 328 | 328 | 325 | 312 | 308 | 311 | 300 | 300 | 300 | 300 | 290 | 281 | 284 | 275 | 213 | 230 | 42 | 63 | |
| 甲信ユニットセンター (山梨大学) | 227 | 15 | - | 6.6% | 212 | 5 | 227 | 227 | 227 | 227 | 227 | 222 | 220 | 222 | 212 | 212 | 212 | 212 | 205 | 205 | 204 | 171 | 184 | 184 | 46 | 31 | |
| 甲信サブユニットセンター (信州大学) | 131 | 15 | - | 11.5% | 116 | 7 | 131 | 131 | 131 | 131 | 131 | 129 | 128 | 129 | 121 | 121 | 121 | 121 | 117 | 116 | 116 | 108 | 108 | 108 | 35 | 34 | |
| 富山ユニットセンター | 270 | 14 | - | 5.2% | 256 | 2 | 271 | 271 | 271 | 271 | 272 | 269 | 264 | 267 | 252 | 252 | 252 | 252 | 251 | 250 | 241 | 215 | 214 | 213 | 54 | 18 | |
| 愛知ユニットセンター | 279 | 9 | - | 3.2% | 270 | 1 | 281 | 281 | 281 | 281 | 278 | 280 | 279 | 279 | 273 | 273 | 273 | 273 | 273 | 272 | 270 | 249 | 229 | 229 | - | 103 | |
| 京都ユニットセンター | 195 | 10 | - | 5.1% | 185 | 4 | 195 | 195 | 195 | 195 | 192 | 190 | 188 | 190 | 190 | 190 | 190 | 190 | 178 | 172 | 169 | 160 | 173 | 173 | 65 | 46 | |
| 大阪ユニットセンター | 392 | 24 | 2 | 6.1% | 368 | 6 | 389 | 389 | 389 | 389 | 389 | 382 | 382 | 382 | 370 | 370 | 370 | 370 | 361 | 361 | 345 | 263 | 197 | 197 | 36 | 36 | |
| 兵庫ユニットセンター | 250 | 4 | - | 1.6% | 246 | 2 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 | 248 | 248 | 248 | 243 | 243 | 243 | 243 | 227 | 227 | 226 | 205 | 213 | 213 | - | - | |
| 鳥取ユニットセンター | 149 | 8 | 1 | 5.4% | 141 | 4 | 147 | 147 | 147 | 147 | 147 | 141 | 141 | 141 | 137 | 137 | 137 | 137 | 127 | 127 | 127 | 117 | 108 | 108 | 27 | 27 | |
| 高知ユニットセンター | 338 | 16 | - | 4.7% | 322 | 5 | 339 | 339 | 339 | 339 | 341 | 332 | 332 | 332 | 328 | 328 | 328 | 328 | 302 | 301 | 292 | 270 | 269 | 269 | 93 | 94 | |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 148 | 6 | - | 4.1% | 142 | 2 | 147 | 147 | 147 | 147 | 146 | 147 | 147 | 147 | 139 | 139 | 139 | 139 | 133 | 132 | 131 | 116 | 127 | 128 | 34 | 34 | |
| 九州大学サブユニットセンター | 238 | 21 | - | 8.8% | 217 | 6 | 238 | 238 | 238 | 238 | 241 | 231 | 228 | 229 | 215 | 215 | 215 | 215 | 198 | 197 | 188 | 157 | 166 | 166 | 22 | 56 | |
| 熊本大学サブユニットセンター | 148 | 6 | - | 4.1% | 142 | 2 | 148 | 148 | 148 | 148 | 149 | 147 | 147 | 146 | 145 | 145 | 145 | 145 | 140 | 138 | 136 | 127 | 129 | 130 | - | - | |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 91 | 3 | - | 3.3% | 88 | 1 | 91 | 91 | 91 | 91 | 89 | 90 | 90 | 89 | 89 | 89 | 89 | 89 | 88 | 88 | 87 | 55 | 46 | 57 | 11 | 27 | |
| 琉球大学サブユニットセンター | 43 | 1 | - | 2.3% | 42 | 1 | 43 | 43 | 43 | 43 | 44 | 43 | 43 | 43 | 42 | 42 | 42 | 42 | 41 | 41 | 41 | 26 | 17 | 17 | - | 1 | |
| 総計 | 5,018 | 270 | 3 | 5.4% | 4,748 | 98 | 5,013 | 5,013 | 5,012 | 5,013 | 5,003 | 4,909 | 4,878 | 4,897 | 4,711 | 4,711 | 4,711 | 4,711 | 4,535 | 4,442 | 4,430 | 3,719 | 3,728 | 3,744 | 788 | 750 | |

※詳細調査の同意者：現所属組織の児の数（リクルート組織、母親の数ではない（多胎で詳細調査に参加している時は多胎の数））

参考③ フォローアップ活動（質問票の回収状況、コミュニケーション活動） ※「○」実施または実施予定、「△」企画していたが中止、「-」なし

| | コミュニケーション活動 | | | | | | | | | | | | | | 備考 | | |
|--------------------|--------------------|------|-----------|----------------------|------------------------|-----|----------|--------------------|---|-----------------|------------|------------|---|-----|-------------------------------|--------------------|----------------------------|
| | ニュースレター・ 広報物の配布 | Web | | | | | 粗品 配布 | 対面イベント | | | オンラインイベント | | | その他 | 調査の成果に関わるリスクコ ミュニケーションへの取組 | 科学コミュニケーショ ンの取組 | 参加児の理解促進・参加児向 けコンテンツの作成 |
| | | 情報提供 | 調査の成果に関する | 供 HPによる各種情報提 供 | HPによる調査の成果 に関する情報提供 | SNS | | 調査参加者の参加型 コンテンツ | ト | 参加者限定主催イベン ト | 一般向け主催イベント | 地域イベントへの参加 | ト | | | | |
| 北海道ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 宮城ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 福島ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 千葉ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ |
| 神奈川ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | ○ | - | ○ |
| 富山ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 愛知ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 京都ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 大阪ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | - | - | △ | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 兵庫ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 鳥取ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ |
| 高知ユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 産業医科大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 九州大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | ○ |
| 熊本大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | ○ | ○ | - | ○ |
| 宮崎大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | ○ | - | - | ○ |
| 琉球大学サブユニットセンター | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ |

参考④ 令和5年度地域運営協議会への参加機関呼びかけ数

| | ①健康・福祉系 | ②環境系 | ③教育系 | ④その他 | 合計 |
|--------------------|---------|------|------|------|-----|
| 北海道ユニットセンター | 47 | 3 | 17 | 5 | 72 |
| 宮城ユニットセンター | 67 | 0 | 16 | 7 | 90 |
| 福島ユニットセンター | 177 | 1 | 19 | 3 | 200 |
| 千葉ユニットセンター | 40 | 7 | 4 | 0 | 51 |
| 神奈川ユニットセンター | 21 | 3 | 1 | 0 | 25 |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 19 | 1 | 4 | 6 | 30 |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 10 | 1 | 5 | 0 | 16 |
| 富山ユニットセンター | 18 | 1 | 11 | 0 | 30 |
| 愛知ユニットセンター | 26 | 3 | 3 | 5 | 37 |
| 京都ユニットセンター | 45 | 4 | 6 | 3 | 58 |
| 大阪ユニットセンター | 32 | 1 | 9 | 0 | 42 |
| 兵庫ユニットセンター | 25 | 1 | 1 | 0 | 27 |
| 鳥取ユニットセンター | 5 | 1 | 2 | 0 | 8 |
| 高知ユニットセンター | 23 | 2 | 2 | 0 | 27 |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 40 | 1 | 5 | 3 | 49 |
| 九州大学サブユニットセンター | 10 | 0 | 1 | 3 | 14 |
| 熊本大学サブユニットセンター | 34 | 0 | 32 | 8 | 74 |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 15 | 1 | 2 | 0 | 18 |
| 琉球大学サブユニットセンター | 9 | 2 | 1 | 1 | 13 |

参考⑤ 学位論文数（累積本数）

(令和5年9月末現在)

| | 修士論文 | | 博士論文 | | 計 | |
|--------------------|------|--------|------|--------|-----|--------|
| | 論文数 | うち追加調査 | 論文数 | うち追加調査 | 論文数 | うち追加調査 |
| 計 | 19 | (8) | 48 | (14) | 67 | (22) |
| 北海道ユニットセンター | 1 | (0) | 4 | (2) | 5 | (2) |
| 宮城ユニットセンター | 6 | (6) | 9 | (6) | 15 | (12) |
| 福島ユニットセンター | 0 | (0) | 3 | (2) | 3 | (2) |
| 千葉ユニットセンター | 1 | (0) | 3 | (1) | 4 | (1) |
| 神奈川ユニットセンター | 1 | (0) | 3 | (0) | 4 | (0) |
| 甲信ユニットセンター(山梨大学) | 0 | (0) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| 甲信サブユニットセンター(信州大学) | 0 | (0) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| 富山ユニットセンター | 1 | (0) | 3 | (0) | 4 | (0) |
| 愛知ユニットセンター | 1 | (1) | 3 | (2) | 4 | (3) |
| 京都ユニットセンター | 1 | (1) | 1 | (0) | 2 | (1) |
| 大阪ユニットセンター | 0 | (0) | 3 | (0) | 3 | (0) |
| 兵庫ユニットセンター | 0 | (0) | 3 | (0) | 3 | (0) |
| 鳥取ユニットセンター | 0 | (0) | 1 | (0) | 1 | (0) |
| 高知ユニットセンター | 4 | (0) | 8 | (1) | 12 | (1) |
| 産業医科大学サブユニットセンター | 1 | (0) | 1 | (0) | 2 | (0) |
| 九州大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 1 | (0) | 1 | (0) |
| 熊本大学サブユニットセンター | 1 | (0) | 1 | (0) | 2 | (0) |
| 宮崎大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| 琉球大学サブユニットセンター | 0 | (0) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| メディカルサポートセンター | 0 | (0) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| コアセンター | 1 | (0) | 1 | (0) | 2 | (0) |

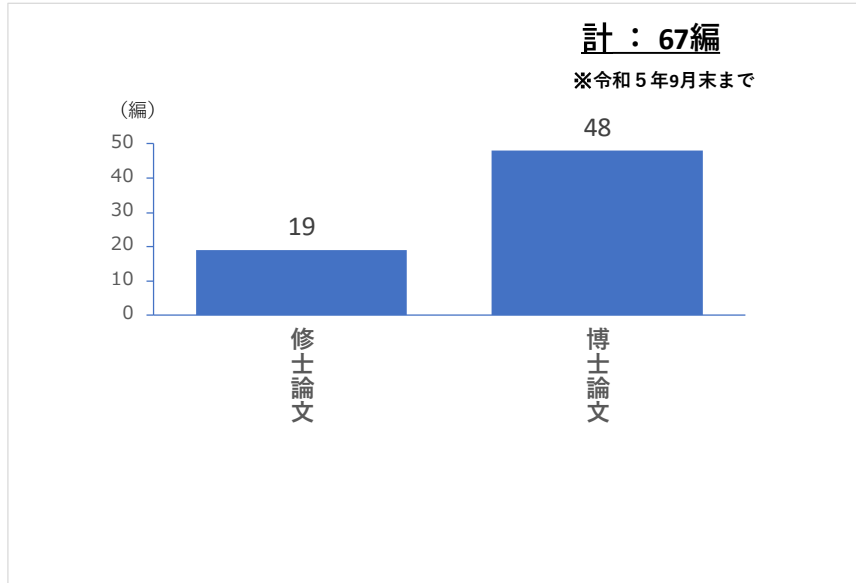


図5 学位論文数（累積本数、令和5年9月末現在）

審議経緯

令和5年9月13日 第1回エコチル調査企画評価委員会

令和5年8月31日～12月15日 環境省による実地調査（日程はp59を参照）

令和6年1月17日 エコチル調査評価ワーキンググループ

令和6年3月6日 第2回エコチル調査企画評価委員会

令和5年度 エコチル調査企画評価委員会委員名簿

(敬称略、五十音順)

| 氏 名 | 所属・職名 |
|-------|--|
| 井口 泰泉 | 公立大学法人 横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 特任教授 |
| 石井 礼花 | 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部 発達機能研究室 室長 |
| 板倉 敦夫 | 公益社団法人 日本産科婦人科学会 周産期委員長 |
| 伊藤 隆一 | 公益社団法人 日本小児科医会 会長 |
| 岩澤 美帆 | 国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部 部長 |
| 岩田 和之 | 学校法人松山大学 経済学部 経済学科 教授 |
| 内山 巖雄 | 国立大学法人 京都大学 名誉教授 |
| 衛藤 隆 | 国立大学法人 東京大学 名誉教授 |
| 楠田 聡 | 東京医療保健大学大学院 臨床教授 |
| 鈴木 俊治 | 公益社団法人 日本産婦人科医会 常務理事 |
| 千先 園子 | 公益社団法人 日本小児保健協会 |
| 曾根 智史 | 国立保健医療科学院 院長 |
| 田口 智章 | 一般社団法人 日本小児期外科系関連学会協議会 会長 |
| 玉腰 暁子 | 国立大学法人 北海道大学大学院 医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室 教授 |
| 遠山 千春 | 国立大学法人 東京大学 名誉教授 |
| 中下 裕子 | コスモス法律事務所 弁護士 |
| 細川 秀一 | 公益社団法人 日本医師会 常任理事 |
| 麦島 秀雄 | 公益社団法人 日本小児科学会 名誉会員 |
| 村田 勝敬 | 国立大学法人 秋田大学 名誉教授 |
| 森 剛志 | 一般社団法人 日本化学工業協会 化学品管理部 部長 |

令和5年度エコチル調査評価ワーキンググループ委員名簿

(敬称略、五十音順)

| 氏名 | 所属・職名 |
|-------|--|
| 井口 泰泉 | 公立大学法人 横浜市立大学 大学院 生命ナノシステム科学研究科 特任教授 |
| 岩田 和之 | 学校法人松山大学 経済学部 経済学科 教授 |
| 鈴木 俊治 | 公益社団法人 日本産婦人科医会 常務理事 |
| 玉腰 暁子 | 国立大学法人 北海道大学大学院 医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室 教授 |
| 麦島 秀雄 | 公益社団法人 日本小児科学会 名誉会員 |
| 村田 勝敬 | 国立大学法人 秋田大学 名誉教授 |

<オブザーバー>

| | |
|-------|------------------|
| 内山 巖雄 | 国立大学法人 京都大学 名誉教授 |
|-------|------------------|

実地調査日程

| No | 日時 | | 実施方法 | 実施機関 |
|----|-----------|-------------|----------|---------------------|
| 1 | 8月31日(木) | 13:00-15:00 | 現地訪問+Web | 北海道ユニットセンター |
| 2 | 9月22日(金) | 10:00-12:00 | 現地訪問+Web | 南九州・沖縄ユニットセンター |
| 3 | 9月27日(水) | 13:00-15:00 | Web | コアセンター |
| 4 | 10月2日(月) | 11:00-13:00 | 現地訪問+Web | 神奈川ユニットセンター |
| 5 | 10月3日(火) | 10:00-12:00 | Web | 福岡ユニットセンター (九州大学) |
| 6 | 10月4日(水) | 14:00-16:00 | Web | メディカルサポートセンター |
| 7 | 10月6日(金) | 15:00-17:00 | 現地訪問+Web | 高知ユニットセンター |
| 8 | 10月18日(水) | 10:00-12:00 | Web | 兵庫ユニットセンター |
| 9 | 10月20日(金) | 14:00-16:00 | Web | 富山ユニットセンター |
| 10 | 10月23日(月) | 10:00-12:00 | Web | 千葉ユニットセンター |
| 11 | 10月26日(木) | 14:00-16:00 | Web | 福岡ユニットセンター (産業医大) |
| 12 | 11月9日(木) | 14:00-16:00 | Web | 鳥取ユニットセンター |
| 13 | 11月21日(火) | 14:00-16:00 | Web | 京都ユニットセンター |
| 14 | 11月29日(水) | 14:00-16:00 | 現地訪問+Web | 甲信ユニットセンター (山梨大学) |
| 15 | 12月6日(水) | 13:00-15:00 | Web | 福島ユニットセンター |
| 16 | 12月7日(木) | 14:00-16:00 | Web | 愛知ユニットセンター |
| 17 | 12月8日(金) | 10:00-12:00 | Web | 大阪ユニットセンター |
| 18 | 12月13日(水) | 16:00-18:00 | 現地訪問+Web | 宮城ユニットセンター |
| 19 | 12月15日(金) | 10:00-12:00 | Web | 甲信サブユニットセンター (信州大学) |